

2019年度 東邦音楽大学 パフォーマンス総合芸術文化専攻 シラバス

— 目 次 —

基礎教育科目(外国の言語と文化を含む)

東邦スタンダードA	1
東邦スタンダードB	3
芸術文化とユネスコA	5
芸術文化とユネスコB	7
文化芸術論A	9
文化芸術論B	11
日本国憲法と生活A	13
日本国憲法と生活B	15
ひとを読み解く科学A	17
ひとを読み解く科学B	19
情報スキルA	21
情報スキルB	23
Basic English 1	25
Basic English 2	27
Advance English 1	29
Advance English 2	31
Career English 1	33
Career English 2	35
Communication Skills I A	37
Communication Skills I B	39
Communication Skills II A	41
Communication Skills II B	43

音楽専門教育科目・共通専門教育科目

作曲家の肖像と作品の魅力ⅠA	45
作曲家の肖像と作品の魅力ⅠB	47
作曲家の肖像と作品の魅力ⅡA	49
作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB	51
西洋音楽史A	53
西洋音楽史B	55
東洋音楽史A	57
東洋音楽史B	59
日本音楽史A	61
日本音楽史B	62
日本の伝統音楽概説A	63
日本の伝統音楽概説B	65
音楽の基礎理論A	67
音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)	69
音楽心理学A	71
音楽心理学B	73
P. A. C. S 1	75
P. A. C. S 2	77
P. A. C. S 3	79
P. A. C. S 4	81
ポップス・ボーカルアプローチA	83
ポップス・ボーカルアプローチB	85
エンタメプロデュースA	87
エンタメプロデュースB	89
ステージングとパフォーマンス	91
演技とパフォーマンス	93
THE 業界人(仕事の流儀)ⅠA	95
THE 業界人(仕事の流儀)ⅠB	97
人間教育科目	
ヒューマンコミュニケーション1・2・3・4	99

科目名(クラス)	東邦スタンダードA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	澤 敦	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。								
【授業の到達目標】								
学生生活の基礎的知識を把握することができる。 スタディスキルを身につける。 コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用することができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業である。一人一人が積極的に 授業に貢献しようと心がけること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
前記授業初回および最終回に記入するポートフォリオ30%、セメスター終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。								
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	学生生活における危機管理・非常時に対する備え・防災心得				学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。			
第2回	オリエンテーション ・東邦スタンダードとは・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入) ・学生生活について				配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。 学生生活を円滑に送ることができるように内容を確認する。			
第3回	防犯講話 ・学生生活における防犯上の諸注意・大麻(薬物)の危険性と犯罪について				配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。 防犯意識を持つ。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	講話 「いのちの授業～一人ひとりに授けられた奇跡としての『いのち』を考える～」 ・愛和病院の講師による講演	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。 命という最も大切なことについて目を向け、日常の中で関連事項に目を向ける。
第5回	高校生から大学生へ ・大学生の学び方 ・聴く態度 ・グループ討議入門	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第6回	大学生としてのマナー ・学生生活の基本 ・コミュニケーション力	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第7回	授業の受け方 ・受講態度について ・ノートテイクの基本 ・新聞の読み方 ・情報収集の仕方	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。 新聞に目を通す習慣を身に付ける。
第8回	消費生活講座 ・ネットトラブル、架空請求等の悪徳商法の被害を防ぐために	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。 日常生活でトラブルにならないように講話を生かす。
第9回	労働法セミナー ・アルバイト等「労働」する場合のルール、働く人の持つ権利等 について	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。 実際のアルバイト等の現場に知識を生かす。
第10回	情報検索 ・図書館の活用方法 ・資料検索の方法 ・ネット検索の仕方	検索方法を習得し、日々の勉強に役立てるように努める。
第11回	レポートの書き方 ・レポート提出の流れ ・レポートを書く上での注意	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第12回	講話 「音楽に関わる仕事」1	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第13回	講話 「音楽に関わる仕事」2	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第14回	コミュニケーションの基本 ・コミュニケーションの重要性 ・アサーション ・質問力	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	本授業のみならず、各自のレッスンや授業への取り組みについて、具体的に振り返る。

科目名(クラス)	東邦スタンダードB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	澤 敦	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。								
【授業の到達目標】								
学生生活の基礎的知識を把握することができる。 スタディスキルを身につける。 コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用することができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業である。一人一人が積極的に 授業に貢献しようと心がけること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
前記授業初回および最終回に記入するポートフォリオ30%、セメスター終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。								
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	振り返りと目標設定 ・夏休みの振り返り ・後期目標設定(ポートフォリオ記入)				夏休みを振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。			
第2回	OB/OG講演会・本学卒業生による講演会				予習:講師への質問を考えておく 復習:講演会で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる			
第3回	タイムマネジメント ・計画・進捗管理 ・PDCAサイクル				配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	大学生のためのマネー講座 税金の仕組み	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。
第5回	年金講座 ・国民年金について	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。
第6回	伝える力1 ・話し方チェック PREP法 YES・BUT法 円滑なコミュニケーションを図る話し方、相手に伝わりやすい話し方	授業で学んだ内容を日常生活の中で実際に応用して実践する。
第7回	情報リテラシー ・情報収集における留意点 ・SNS等の利用マナー、文献引用のルールについて	学習の内容を日常生活に生かし実践する。
第8回	伝える力2 ・雑談力を高める コミュニケーションをより円滑にするための「雑談」実践ワーク	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第9回	グループディスカッション1 ・グループディスカッションの進め方	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第10回	伝わる書き方 ・文章表現の基本	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第11回	海外経験者の体験談を聴く	予習:講師への質問を考えておく 復習:印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第12回	質問力を身に着けよう ・良い質問とは(インタビューワーク)	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第13回	プレゼンテーション基礎 ・プレゼンテーションの基礎知識 プレゼンテーションワーク ・グループワーク	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第14回	グループディスカッション2 ・ディスカッションワーク ・個人ワーク ・プレゼンテーション	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	本授業のみならず、各自のレッスンや授業への取り組みについて、具体的に振り返る。

科目名(クラス)	芸術文化とユネスコA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	城之内 ミサ	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
ユネスコとは、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization といい、その頭文字をとってU.N.E.S.C.O.＝略してユネスコと言われている国際連合の教育科学文化機関です。世界遺産でも有名なユネスコは、国連の中では唯一「文化」を担っており、文化の中には「芸術」としての категория で音楽も含まれることから、音楽家にとっても非常に馴染み深い機関です。そのユネスコの取り組みや世界遺産の在り方、無形文化遺産等含む「文化とはなにか」について学び、心を豊にする「旅」や「観光とはなにか」を考査する授業。								
【授業の到達目標】								
ユネスコ事務局長を務めた講師や世界遺産検定のプロ、ユネスコ平和芸術家からユネスコの取り組みを学ぶことで、異文化を理解し国際社会に目を向け、文化というカテゴリーでの新しい芸術(エンタメ含む)を通し世界に通用するパフォーマー、プロデューサー等を育てる。また、教員からの一方向的な講義だけで知識を覚えるのではなく、教員の世界観について講師と対話しながら、受講生たちが授業に主体的に参加し、自ら、あるいはグループワークを通して深く考えながら課題を解決する力を養うことを目的とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主ですがグループワークやDVD,CD等の鑑賞も取り入れます								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
異文化の歴史や文明、発展を学ぶ中、馴染みのない国や地域の話があると思いますが、国際人として活躍する各講師の経験に心を開いてご自身の「国際人」としての視野を広げることを目標とする。遅刻早退は原則的に認めません。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。								
教科書			著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	はじめに:世界遺産を「学ぶ」とは／講師:宮澤光				予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。			
第2回	世界遺産条約とユネスコの平和理念／講師:宮澤光				予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。			
第3回	ユネスコのイメージを絵画や音楽で伝える～世界的画伯・濱野年宏氏の世界観／講師:城之内ミサ				予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ユネスコ事務局長の仕事～外交とは／講師:松浦晃一郎	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第5回	京都と奈良は何が違う？ 世界遺産登録基準について／講師:宮澤光	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第6回	京都とパリ、奈良とローマ 世界遺産としての共通点と相違点	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第7回	世界無形文化遺産とは／講師:松浦晃一郎	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第8回	世界危機遺産～人災と天災／講師:松浦晃一郎	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第9回	イタリアの世界遺産(1) 「ローマの歴史地区」ほか／講師:松浦晃一郎	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第10回	日本の世界遺産、韓国の世界遺産／講師:松浦晃一郎	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第11回	世界遺産の現状と今後／講師:松浦晃一郎	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第12回	イタリアの世界遺産(2) 「フィレンツェの歴史地区」ほか	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第13回	世界無形文化遺産としての音楽、楽器(1)／講師:城之内ミサ	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第14回	フランスの世界遺産(1)「パリのセーヌ河岸」ほか	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第15回	フランスの世界遺産(2)「ロワール渓谷」ほか	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。

科目名(クラス)	芸術文化とユネスコB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	城之内 ミサ	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
ユネスコとは、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization といい、その頭文字をとってU.N.E.S.C.O.＝略してユネスコと言われている国際連合の教育科学文化機関です。世界遺産でも有名なユネスコは、国連の中では唯一「文化」を担っており、文化の中には「芸術」としてのカテゴリーで音楽も含まれることから、音楽家にとっても非常に馴染み深い機関です。そのユネスコの取り組みや世界遺産の在り方、無形文化遺産等含む「文化とはなにか」について学び、心を豊にする「旅」や「観光とはなにか」を考査する授業。								
【授業の到達目標】								
ユネスコ事務局長を務めた講師や世界遺産検定のプロ、ユネスコ平和芸術家からユネスコの取り組みを学ぶことで、異文化を理解し国際社会に目を向け、文化というカテゴリーでの新しい芸術(エンタメ含む)を通し世界に通用するパフォーマー、プロデューサー等を育てる。また、教員からの一方向的な講義だけで知識を覚えるのではなく、教員の世界観について講師と対話しながら、受講生たちが授業に主体的に参加し、自ら、あるいはグループワークを通して深く考えながら課題を解決する力を養うことを目的とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主ですがグループワークやDVD,CD等の鑑賞も取り入れます								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
異文化の歴史や文明、発展を学ぶ中、馴染みのない国や地域の話があると思いますが、国際人として活躍する各講師の経験に心を開いてご自身の「国際人」としての視野を広げることを目標とする。遅刻早退は原則的に認めません。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	旅の文化ー「サービスとホスピタリティ」 旅行の歴史 異文化体験(風土と食文化) 世界で通じる外国語とは /講師:片山邦夫			予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。				
第2回	中国琵琶奏者・シャオロンさんを迎えて～その音色と歴史/講師:城之内ミサ			予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。				
第3回	中国の世界遺産 「北京の故宮」ほか/講師:宮澤光			予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ユネスコ平和芸術家の仕事／講師:城之内ミサ	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第5回	オーストラリアの世界遺産 「シドニーのオペラハウス」ほか／講師:宮澤光	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第6回	世界の文化と宗教／講師:紀藤正樹	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第7回	相互理解／講師:紀藤正樹	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第8回	世界と法律～民族多様性／ 講師:紀藤正樹	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第9回	アメリカの世界遺産 「イエロストーン国立公園」ほか／講師:宮澤光	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第10回	メキシコの世界遺産 「テオティワカンの古代都市」ほか／講師:宮澤光	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第11回	映画と世界遺産／講師:宮澤光	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第12回	クリスマスと世界遺産／講師:宮澤光	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第13回	ユネスコと世界遺産～まとめと発表／講師:宮澤光	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第14回	旅の魅力ー「格安ツアーをVIPツアーに変える」 パッケージツアーと個人手配旅行 パッケージツアー比較 ツアーパンフレットを読み解く / 講師:片山邦夫	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。
第15回	旅の感動ー「これからの旅行のトレンド」 サステナブルツーリズム 海外クルーズ 訪日外国人旅行 / 講師:片山邦夫	予習:世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を調べてみる。 復習:世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるように今回の授業をまとめる。

科目名(クラス)	文化芸術論A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	相良憲昭	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		「文化とは何か？」この疑問に答えることが「文化芸術論」の主な目標である。いうまでもなく、芸術は文化の重要な一部分であるが、芸術イコール文化ではない。宗教も言語もまた、文化の重要な要素である。簡単に言ってしまうと、文化とは人の営みのすべてである。だから文化はきれいなもの、きれいなことに限らない。文化人を殺すこともありうる。人類の歴史をひも解いてみれば、文化が戦争の引き金となった事例さえ珍しいことではない。「文化とは何か？」を問うことによって、「文化の担い手である「人」とは何か」という新たな疑問を考察するヒントを得ることになる。文化は単に美しいもの、貴重なものではない。芸術を学ぶ学生は、ぜひ文化とは何かを深く考察してほしい。						
【授業の到達目標】		人の営みとしてきわめて重要である「文化」がもつ様々な側面を考察し、理解を深めることによって、個々人が芸術文化の理想的な姿をイメージできるようにすること。						
【授業の「方法」と「形式」】		講義中心の授業ですが、できれば学生同士のディスカッションも試してみたい。						
【履修時の「留意点」と「心得」】		講義中に自分の考えを他者に表明することに積極的であってほしいと思います。						
【成績評価の「方法」と「基準」】		試験、レポートや授業に臨む態度等を総合的に評価します。						
教科書	使用しません			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	文化の定義(I)				予習:文化の定義について予習する。 復習:今回の授業をまとめる。			
第2回	文化の定義(II)				予習:自ら文化を定義してみる。 復習:今回の授業をまとめる。			
第3回	文化と文明は同じものか違うものか？				予習:文化と文明の違いについて考える。 復習:今回の授業をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	人(ヒト)以外の動物は文化をもつか？	予習:犬や猫などの動物は文化を持つ と思うか考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第5回	様々な文化的事象	予習:文化とは何かについて改めて かんがえる。 復習:今回の授業をまとめる。
第6回	文化としての芸術	予習:様々な文化的事象 (思いつくままに)を考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第7回	文化としての宗教	予習:様々な文化的事象 (思いつくままに)を考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第8回	文化としての言語	予習:世界にはいくつの言語があるか を考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第9回	文化の価値的側面(価値観としての文化)	予習:文化と教育について考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第10回	価値観の継承としての教育	予習:文化と教育に関する自由記述をする。 復習:今回の授業をまとめる。
第11回	文化とアイデンティティー	予習:アイデンティティーとは何か を考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第12回	文化発展	予習:文明の発展と文化発展との関連 について考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第13回	文化と権力	予習:国家権力は文化に介入できるか を考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第14回	自然権としての「文化権」	予習:基本的人権について考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第15回	まとめと次への展望	復習:各回の振り返ってみる。

科目名(クラス)	文化芸術論B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	相良 憲昭	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		「文化とは何か？」この疑問に答えることが「文化芸術論」の主な目標である。いうまでもなく、芸術は文化の重要な一部分であるが、芸術イコール文化ではない。宗教も言語もまた、文化の重要な要素である。簡単に言ってしまうと、文化とは人の営みのすべてである。だから文化はきれいなもの、きれいなことに限らない。文化人を殺すこともありうる。人類の歴史をひも解いてみれば、文化が戦争の引き金となった事例さえ珍しいことではない。「文化とは何か？」を問うことによって、「文化の担い手である「人」とは何か」という新たな疑問を考察するヒントを得ることになる。文化は単に美しいもの、貴重なものではない。芸術を学ぶ学生は、ぜひ文化とは何かを深く考察してほしい。						
【授業の到達目標】		人の営みとしてきわめて重要である「文化」がもつ様々な側面を考察し、理解を深めることによって、個々人が芸術文化の理想的な姿をイメージできるようにすること。						
【授業の「方法」と「形式」】		講義中心の授業ですが、できれば学生同士のディスカッションも試してみたい。						
【履修時の「留意点」と「心得」】		講義中に自分の考えを他者に表明することに積極的であってほしいと思います。						
【成績評価の「方法」と「基準」】		試験、レポートや授業に臨む態度等を総合的に評価します。						
教科書	使用しません			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	日本人の文化的特性				予習:日本人の文化の主な特性を考える。 復習:今回の授業をまとめる。			
第2回	同質性の高い日本文化				予習:日本人に生まれたことの意義について考える。 復習:今回の授業をまとめる。			
第3回	文明受容に積極的な日本人				予習:日本史の概要を整理してみる。 復習:今回の授業をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	「国際社会と文化」	予習:世界史における文化の役割について 考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第5回	「国民国家とはなにか？」	予習:国民とは何か？国家とはなにかを 考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第6回	国際社会における様々な文化関係	予習:文化交流について考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第7回	文化交流、文化摩擦、文化侵略	予習:国家間の様々な文化関係について 考察する。 復習:今回の授業をまとめる。
第8回	文化外交	予習:日本は文化外交が上手かについて 考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第9回	文化政策	予習:国家は文化に対していかなる責任を 負うかについて考察する。 復習:今回の授業をまとめる。
第10回	文化政策における日仏の比較	予習:フランス文化と日本文化とのちがい について話しあう。 復習:今回の授業をまとめる。
第11回	日本文化政策史	予習:日本の文化政策は正しく行われて いるかを考える。 復習:今回の授業をまとめる。
第12回	フランス文化政策史	予習:外国旅行の経験談を準備をする。 復習:今回の授業をまとめる。
第13回	地方自治体の文化政策	予習:京都、奈良、鎌倉、金沢などに ついて討論する準備をする。 復習:今回の授業をまとめる。
第14回	まとめと振り返り(I)	復習:今回の授業をまとめる。
第15回	まとめと振り返り(II)	復習:今回の授業をまとめる。

科目名(クラス)	日本国憲法と生活A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	川端 敏朗	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法、たとえば民法、会社法、消費者法、特に国際関係法の仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようにします。								
【授業の到達目標】								
法の果たす機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方をリーガルマインドを身につけることができるようにし、近年の国際化に鑑み広い視野に立った判断をし、法的な事象について具体的な考察ができるようにします。								
【授業の「方法」と「形式」】								
・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察、発言できるようにします。また資料などを用いて具体例も明示します。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認し、考えてみてください。受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また、各項目(テーマ)について、問題点をよく整理してください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・定期試験およびレポート(60%)、講義の中であげた各項目の問題点に対する考察等の取り組み方・熱意や積極性(40%)を踏まえ、総合的に判断します。								
教科書	スタンダード法学			著者等	川端・松嶋編著	出版社	芦書房	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	プライマリー法学			著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房	
参考文献	ポケット六法 平成31年版			著者等		出版社	有斐閣	
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	現代社会での法の果たす役割				予習:シラバスを読み、各回の項目、テーマについて確認し、考えてみる。 復習:法が現実に果たしている役割を整理しておく。			
第2回	法と道徳、法の目的				予習:教科書の法と道徳に関する項目をよく読んでおく。 復習:講義で扱った法と道徳について整理しておく。			
第3回	法の存在形式、法の分類				予習:教科書の法の存在形式、法の分類に関する事項についてよく読んでおく。 復習:講義で扱った法の存在形式、法の分類を整理しておく。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	法の適用と解釈、法の効力－実質的効力と形式的効力	予習:教科書の法の適用、解釈に関する項目を読んでおく。 復習:法の適用と解釈、法の効力について整理しておく。
第5回	日本国憲法の基本原理－日本国憲法の柱になることが何であり、どのような機能を果たしているかについて考える。	予習:教科書の日本国憲法の基本原理に関する項目を読んでおく。 復習:日本国憲法の基本原理の内容について整理しておく。
第6回	基本的人権とは－人権保障のカatalog、基本的人権の一般原則、公共の福祉	予習:教科書で基本的人権の一般原則に関する項目を読んでおく。 復習:日本国憲法の基本原理の一般原則、公共の福祉の内容について整理しておく。
第7回	基本的人権の種別－平等権、自由権、社会権、参政権、請求権、義務	予習:教科書で基本的人権の種別について確認しておく。 復習:基本的人権の内容について整理しておく。
第8回	国会、内閣、裁判所の働き	予習:教科書の国会、内閣、裁判所の項目について読んでおく。 復習:国会、内閣、裁判所の働きについて整理しておく。
第9回	民法(財産法)－物権や債権	予習:物の所有や売買について考えてみる。 復習:物権や債権について整理しておく。
第10回	民法(家族法)－親族や相続、遺留分	予習:教科書で家族法の項目をみでみる。 復習:親族や相続について整理しておく。
第11回	商法－会社法、有価証券法	予習:会社や手形、小切手の利用について考えてみる。 復習:会社、手形、小切手について整理しておく。
第12回	消費者保護のための法律－特定商取引法、消費者契約法	予習:消費者保護の法律について考えてみる。 復習:特定商取引法や消費者契約法の内容について整理しておく。
第13回	国際公法について－条約、国際慣習法	予習:教科書で条約や国際慣習法について確認しておく。 復習:条約や慣習法について整理しておく。
第14回	国際私法について－国際間取引、国際結婚	予習:教科書で国際間取引や国際結婚について教科書で確認しておく。 復習:国際間取引や国際結婚について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習:この講義で扱った事項について教科書、ノートで確認しておく。 復習:講義で扱った事項を整理し、様々な法的問題に対処できるようにしておく。

科目名(クラス)	日本国憲法と生活B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	川端 敏朗	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法、たとえば民法、会社法、消費者法、特に国際関係法の仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているのかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようにします。								
【授業の到達目標】								
法の果たす機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガル・マインドを身につけることができるようにし、近年の国際化に鑑み広い視野に基づく判断をし、法的な事象について具体的な考察ができるようにします。								
【授業の「方法」と「形式」】								
・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察、発言できるようにします。また資料などを用いて具体例も明示します。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認し、考えてみてください。受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また、各項目(テーマ)について、問題点をよく整理してください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・定期試験およびレポート(60%)、講義の中であげた各項目の問題点に対する考察等の取り組み方・熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に判断します。								
教科書	スタンダード法学			著者等	川端・松嶋編著	出版社	芦書房	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	プライマリー法学			著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房	
参考文献	ポケット六法 平成31年版			著者等		出版社	有斐閣	
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	法の基本的な機能				予習:シラバスを読み、各回のテーマについて確認し、考えてみる。 復習:法が現実果たしている役割を整理しておく。			
第2回	国家と法				予習:教科書の国家と法の項目について読んでおく。 復習:講義で扱った国家と法について整理しておく。			
第3回	日本国憲法の構成				予習:教科書の日本国憲法の最初の項目を読んでおく。 復習:講義で扱った日本国憲法の構成について整理しておく。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	基本的人権(特に社会権や財産権など)	予習:教科書の基本的人権の項目をよく確認しておく。 復習:基本的人権の内容について整理しておく。
第5回	国会、内閣、裁判所の地位、権能	予習:裁判所の働きについて考えてみる。 復習:国会、内閣、裁判所について整理しておく。
第6回	地方自治の仕組み、憲法改正	予習:地方自治の仕組みや憲法改正について考えてみる。 復習:地方自治の仕組みや憲法改正について整理しておく。
第7回	裁判所の種類と審級、違憲法令審査権	予習:裁判所の働きについて考えてみる。 復習:講義で扱った裁判所の働きについて整理しておく。
第8回	犯罪と刑罰(刑事法)	予習:教科書で刑法や刑事訴訟法の内容についてみておく。 復習:犯罪と刑罰に関する事項について確認しておく。
第9回	裁判の手続き(民事裁判)	予習:教科書の民事裁判に関する事項を確認しておく。 復習:民事裁判の手続きについて整理しておく。
第10回	裁判の手続き(刑事裁判)、裁判員制度	予習:教科書の刑事裁判や裁判員制度の項目を確認しておく。 復習:刑事裁判や裁判員制度について整理しておく。
第11回	意思表示と契約	予習:意思表示、契約について考えてみる。 復習:意思表示の過程や契約について整理しておく。
第12回	不法行為	予習:不法行為について教科書で確認しておく。 復習:不法行為の内容について整理しておく。
第13回	国際公法について一条約、国際慣習法	予習:条約や国際慣習法について考えてみる。 復習:講義で扱った内容を踏まえ条約や国際慣習法について整理しておく。
第14回	国際私法について一国際間取引、国際結婚	予習:国際間取引や国際結婚について考えてみる。 復習:国際間取引や国際結婚について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習:この講義で扱った事項について教科書、ノートで確認しておく。 復習:講義で扱った事項を整理し、様々な法的問題に対処できるようにしておく。

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
『ひと』とは何か、『ひとの性格(キャラクター又はパーソナリティ)』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は心理学を学ぶ人間にとって身近な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠(＝心理学的な知識や考え方)が必要となります。 この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、自分や「ひと」を多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。前期Aの授業は、『自分自身を深く理解すること』を取り上げます。								
【授業の到達目標】								
心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応(感情、願望)への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。								
【授業の「方法」と「形式」】								
授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えり聴いたりする・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
テキストの購入は不要ですが、配布物が多くなります。配布物はこの科目専用の「青ファイル」に入れて、各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業時間内で、「配布物への記入と提出が求められる」場合があります。教員から指示があったら、当日中に提出してください。これは総合評価の一部とします(50%分)。最終講義日までに解説した「毎回の授業内容」の中から、現在の「自分自身がかかえる心理的課題は何か」、それを「どのように解決していくか」について考え、今から始められる行動は何か、考えてもらえるようにしていきます(50%分)。 どちらも何か1つの正解を求めているのではなく、「学習し獲得した知識や学び得た方法を選んで、(感想文ではなく)自分の言葉で、自分の心理的な課題の理解をすすめ、その根拠や理由について【科学的に】説明できているか」を基準に、評価(100%)をします。								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	本当の「私」がわかる 自分の心理学	著者等	齊藤勇 (2014)	出版社	ナツメ社			
参考文献	折れない心のつくりかた はじめてのレジリエンス・ワークブック	著者等	宇野力オリ・滝本 繁(2016)	出版社	すばる舎			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	授業インフォメーション 第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その1			復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				
第2回	第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その2			予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				
第3回	第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その3			予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	第3章: 自分の力を最大限に出せる心理学 その1	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第5回	第3章: 自分の力を最大限に出せる心理学 その2	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第6回	第3章: 自分の力を最大限に出せる心理学 その3	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第7回	折れない心のつくりかた レジリエンスのワーク その1 「ABC分析で自分の知る」	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第8回	折れない心のつくりかた レジリエンスのワーク その2 「思考のワナから抜け出す」	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第9回	折れない心のつくりかた レジリエンスのワーク その3 「氷山思考を探り当てる」	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第10回	折れない心のつくりかた レジリエンスのワーク その4 「自分の思い込みに挑む」	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第11回	折れない心のつくりかた レジリエンスのワーク その5 「未来のシナリオを書き出す」	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第12回	折れない心のつくりかた レジリエンスのワーク その6 「心を静めるエクササイズ」	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第13回	折れない心のつくりかた レジリエンスのワーク その7 「自分の思考に対抗する」	予習: 前期の授業内容を何度も何度も確認しておく
第14回	折れない心のつくりかた 認知のゆがみを変えていこう	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第15回	★★★前期まとめ(心理学で理解した「自分の心理的な課題」と「その解決方法」を、今までに学んだ内容を使って、言葉で説明する)	予習: 前期の授業で学んだことを、自分の言葉と心理学的な根拠で説明できるようにする 復習: なし

科目名(クラス)		ひとを読み解く科学B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員		三室戸 元光	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】									
『ひと』とは何か、『ひとの性格(キャラクター又はパーソナリティ)』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は心理学を学ぶ人間にとって身近な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠(＝心理学的な知識や考え方)が必要となります。 この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、自分や「ひと」を多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。後期Bの授業は、『人間関係を深く理解すること』を取り上げます。									
【授業の到達目標】									
心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応(感情、願望)への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。									
【授業の「方法」と「形式」】									
授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えり聴いたりする・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
テキストの購入は不要ですが、配布物が多くなります。配布物はこの科目専用の「緑ファイル」に入れて、各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
授業時間内で、「配布物への記入と提出が求められる」場合があります。教員から指示があったら、当日中に提出してください。これは総合評価の一部とします(50%分)。最終講義日までに解説した「毎回の授業内容」の中から、現在の「自分自身がかかえる心理的課題は何か」、それを「どのように解決していくか」について考え、今から始められる行動は何か、掘り下げて考えてもらえるようにしていきます(50%分)。 どちらも何か1つの正解を求めているのではなく、「学習し獲得した知識や学び得た方法を選んで、(感想文ではなく)自分の言葉で、自分の心理的な課題の理解をすすめ、その根拠や理由について【科学的に】説明できているか」を基準に、評価(100%)をします。									
教科書					著者等		出版社		
教科書					著者等		出版社		
参考文献		図解 史上最強よくわかる人間関係の心理学			著者等		碓井真史 監修(2011)		出版社 ナツメ社
参考文献		面白いほどよくわかる！自分の心理学			著者等		渋谷昌三(2013)		出版社 西東社
【授業計画・内容・準備学習】									
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)				
第1回	授業インフォメーション 第1章:あなた自身の対人関係のクセを知ろう				復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				
第2回	第1章 あなた自身の対人関係のクセを知ろう その2				予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				
第3回	第1章 あなた自身の対人関係のクセを知ろう その3				予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その1	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第5回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その2	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第6回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その3	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第7回	第3章 人間関係がうまくいく心理学 その1	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第8回	第3章 人間関係がうまくいく心理学 その2	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第9回	第3章 人間関係がうまくいく心理学 その3	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第10回	第3章 人間関係がうまくいく心理学 その4	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第11回	人間関係実践トレーニング その1	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第12回	人間関係実践トレーニング その2	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第13回	人間関係実践トレーニング その3	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第14回	人間関係実践トレーニング その4	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第15回	★★★後期まとめ(心理学で理解した「自分の心理的な課題」と「その解決方法」を、今までに学んだ内容を使って、言葉で説明する)	予習: 後期の授業で学んだことを、自分の言葉と心理学的な根拠で説明できるようにする 復習: なし

科目名(クラス)	情報スキルA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	佐久間 誠	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
パソコン操作での楽曲制作(GarageBand使用)、映像制作(iMovie)を個々人が行い、完成楽曲の情報発信(Youtube,SNS)までのプロセスをじっくりと時間をかけて行います。初心者、未経験者の方のために今後必須となってくる楽曲制作の基礎スキルの習得を学びます。								
【授業の到達目標】								
技術的なパソコン操作の習得と音楽ソフトの基本的なMIDI入力、ループ素材の扱い方など、スマートフォンからの動画の取込み、トリミングなどの簡単な動画編集ができるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
パソコン操作主体の授業のため、授業の進行に支障がでない作業スタイルを各々に準備していただきます(メガネ、マウス、トラックボールなど)。パソコンは一人一台で学校常備機材を使い、制作したデータはパソコン本体のストレージ容量が少ないため各々がメモリースティックや外付けハードディスクに保存し管理していただきます。また動画撮影を生徒さんのスマートフォンで行う予定ですが、すでに撮影済みのファイルやインターネット上の著作権フリー動画素材の使用でも構いません。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。								
教科書	授業ごとに指示する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	パソコンⅠ～ パソコン基礎操作、用語等の説明				復習:学んだことを反復練習する。			
第2回	パソコンⅡ～ パソコン応用操作、用語等の説明				予習:前回のノウハウをまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	DAW DTM 音楽制作ソフトの説明 GarageBandの基本操作				予習:前回のノウハウをまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ステップ入力Ⅰ～ 課題曲のMIDI入力	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	ステップ入力Ⅱ～ 課題曲のMIDI入力 修正や補正	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	リズム入力Ⅰ～ リズム音源のステップ入力とループ素材の説明	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	リズム入力Ⅱ～ ループパターンの違いによる効果	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	ミックス/トラックダウン～ 最終調整と楽曲のファイル化	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	映像制作Ⅰ～ 映像制作ソフトの説明 iMovieの基本操作	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	映像制作Ⅱ～ 素材撮影 ネットから素材収集	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	映像制作Ⅲ～ 制作音源の取り込み 撮影素材の取り込み 編集	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	映像制作Ⅳ～ 編集	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	映像制作Ⅴ～ 編集 最終調整	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	メディアへの発信 Youtubeへのアップロード	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	作品の総評～ 反省、評価	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	情報スキルB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	佐久間 誠	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
パソコン操作での楽曲制作(GarageBand使用)、映像制作(iMovie)を個人が行い、完成楽曲の情報発信(Youtube,SNS)までのプロセスをじっくりと時間をかけて行います。初心者、未経験者の方のために今後必須となってくる楽曲制作の基礎スキルの習得を学びます。								
【授業の到達目標】								
技術的なパソコン操作の習得と音楽ソフトの基本的なMIDI入力、ループ素材の扱い方など、スマートフォンからの動画の取込み、トリミングなどの簡単な動画編集ができるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
パソコン操作主体の授業のため、授業の進行に支障がでない作業スタイルを各々に準備していただきます(メガネ、マウス、トラックボールなど)。パソコンは一人一台で学校常備機材を使い、制作したデータはパソコン本体のストレージ容量が少ないため各々がメモリースティックや外付けハードディスクに保存し管理していただきます。また動画撮影を生徒さんのスマートフォンで行う予定ですが、すでに撮影済みのファイルやインターネット上の著作権フリー動画素材の使用でも構いません。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。								
教科書				著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	ステップ入力とリアルタイム入力 MIDI入力方法の違い MIDIデータの説明				復習:学んだことを反復練習する。			
第2回	ステップ入力Ⅰ～ 課題曲のMIDI入力				予習:前回のノウハウをまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	ステップ入力Ⅱ～ 課題曲のMIDI入力 修正や補正				予習:前回のノウハウをまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	リズム入力Ⅰ～ リズム音源のステップ入力とループ素材の説明	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	リズム入力Ⅱ～ ループパターンの違いによる効果	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	ミックス/トラックダウン～ 最終調整と楽曲のファイル化	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	映像制作Ⅰ～ 素材撮影 ネットから素材収集	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	映像制作Ⅱ～ 制作音源の取り込み 撮影素材の取り込み 編集	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	映像制作Ⅲ～ 編集	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	映像制作Ⅳ～ 編集 最終調整	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	メディアへの発信 Youtubeへのアップロード	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	オーディオ録音Ⅰ 歌やギターなどの録音	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	オーディオ録音Ⅱ オーディオデータ編集やボーカロイド体験	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	作品視聴会 客観的な目線での作品判断	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	作品の総評～ 反省、評価	予習: 前回のノウハウをまとめる。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	Basic English 1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Basic English は1と2で構成される。Basic English 1では、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることを目的とする。第1回目の授業では、習熟度確認テストを実施し、自身の英語力を確認することから始める。第2回目以降の授業では、指定したテキストを用いた講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなどの口頭発表を通して、英語を総合的に運用するための基礎を作る。								
【授業の到達目標】								
Basic English 1は、英語を運用するために必要な「聞く、読む、話す、書く」力を体系的にレベルアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えることができる。 ・やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Basic English1では、発表の機会も多く、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 中間テスト(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション 習熟度確認テスト ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇シラバスを読んでください。英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしても構います。準備してください。			
第2回	English training (1)				予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training (2)				予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	中間テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Basic English 2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Basic English 2は、Basic1に引き続き、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることを目的とする。第1回目の授業ではBasic1で習得した単語や表現を活用して、予め提示したテーマについて口頭発表を行う。第2回目以降の授業では、講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・口頭発表などを通して、英語を総合的に運用するための基礎を完成させる。								
【授業の到達目標】								
Basic English 2は、英語を運用するために必要な「聞く、読む、話す、書く」力を体系的にレベルアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにする。 ・やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Basic English2では、発表の機会も多く、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 中間テスト(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社		
s				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇シラバスを読んでください。			
第2回	English training (1)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training (2)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	中間テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Advance English 1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Advance English は1と2で構成される。Advance English 1は、Basic English1と2の発展として、「聞く、読む、話す、書く」の各領域をさらに体系的にレベルアップさせることを目的とする。第1回目の授業では、習熟度確認テストを実施し、自身の英語力を確認する。第2回目以降の授業では、指定したテキストを用いた講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・口頭発表などを通して、英語の運用能力を高める。								
【授業の到達目標】								
Advance English 1は、英語を運用するために必要な「聞く、読む、話す、書く」力を体系的にブラッシュアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・英語で話された内容や読み物の内容を的確に理解し、要点を掴むことができる。 ・簡単な言葉で発話したり、文を書けるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Advance English1では、発言の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 中間テスト(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション 習熟度確認テスト ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。			
第2回	English training (1)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training (2)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	中間テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Advance English 2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Advance English 2は、Advance English 1に続き、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることを目的とする。第1回目の授業ではAdvance English 1で習得した単語や表現などを活用して、予め提示したテーマについて口頭発表を行う。第2回目以降の授業では、講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・口頭発表などを通して、英語の運用能力を高める。								
【授業の到達目標】								
Advance English 2は、英語を運用するために必要な「聞く、読む、話す、書く」力を体系的にブラッシュアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・英語で話された内容や読み物の内容を的確に理解し、要点を掴むことができる。 ・簡単な言葉で発話したり、文を書けるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Basic English2では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 中間テスト(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇シラバスを読んでください。			
第2回	English training (1)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training (2)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	中間テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Career English 1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Career Englishは、1 と 2 で構成される。Career English 1 では、ビジネスコミュニケーションに必要な素養を学び、ビジネス英語特有の表現を活用できる能力の育成を目指す。また、状況によって、様々な業界で活躍する講師によるレッスンも予定している(スケジュール等未定)。								
【授業の到達目標】								
英語を使って仕事をするには、高度な英語運用力が求められる。本授業における到達目標は下記の通りである。 ・英語の基礎となる「聞く」「話す」「読む」「書く」の4機能を体系的に磨く。 ・必要な情報を取捨選択し、相手の意図を正しく汲みとることができる。 ・ビジネスマナーを踏まえ、英語でのフォーマルなコミュニケーションに対応できる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Career English1 では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 小課題(授業内での課題含む)(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	初回授業でお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション 習熟度確認テスト ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇シラバスを読んでください。また、英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。			
第2回	English training for Business(1)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training for Business(2)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training for Business(3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for Business(4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for Business(5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for Business(6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for Business(7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for Business(8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for Business(9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for Business(10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for Business(11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for Business(12)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Career English 2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Career Englishは、1 と 2 で構成される。Career English 2 では、ビジネスコミュニケーションに必要な素養を学び、ビジネス英語特有の表現を活用できる能力の育成を目指す。また、状況によって、様々な業界で活躍する講師によるレッスンも予定している(スケジュール等未定)。								
【授業の到達目標】								
英語を使って仕事をするには、高度な英語運用力が求められる。本授業における到達目標は下記の通りである。								
・英語の基礎となる「聞く」「話す」「読む」「書く」の4機能を体系的に磨く。 ・必要な情報を取捨選択し、相手の意図を正しく汲みとることができる。 ・ビジネスマナーを踏まえ、英語でのフォーマルなコミュニケーションに対応できる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Career English2 では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 小課題(授業内での課題含む)(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇シラバスを読んでください。			
第2回	English training for Business(1)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training for Business(2)				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training for Business(3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for Business(4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for Business(5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for Business(6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for Business(7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for Business(8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for Business(9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for Business(10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for Business(11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for Business(12)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Communication Skills I A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Communication Skillsは、I AとI Bで構成される。Communication Skills I A では、日常における様々な状況(会話、手紙、メール、SNSなど)を想定し課題に取り組むなかで、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎づくりを目的とする。I AとI Bを通して、ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど確認しながら)。								
【授業の到達目標】								
Communication Skills I A における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Communication Skills I A では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 小テスト(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション (習熟度確認テスト) ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇シラバスを読んでください。英語で簡単な(各1〜2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。			
第2回	English training for communication(1) 小テスト				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training for communication (2) 小テスト				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training for communication (3) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Communication Skills I B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】							
Communication Skills I B は、Communication Skills I A に引き続き、日常における様々な状況(会話、手紙、メール、SNSなど)を想定し課題に取り組むなかで、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎づくりを目的とする。I AとI Bを通して、ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど確認しながら)。							
【授業の到達目標】							
Communication Skills I A における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにする。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
Communication Skills I B では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 小テスト(20%) 期末確認テスト(20%)							
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社	
教科書				著者等		出版社	
参考文献				著者等		出版社	
参考文献				著者等		出版社	
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります			予習◇シラバスを読んでください。			
第2回	English training for communication(1) 小テスト			予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training for communication (2) 小テスト			予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training for communication (3) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Communication Skills II A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Communication Skills II AとII Bは、Communication Skills I AとI Bの発展として位置付ける。Communication Skills II Aでは、日常における様々な状況を想定し、コミュニケーションスキルをブラッシュアップすることを目的とする。ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど確認しながら)。								
【授業の到達目標】								
Communication Skills II Aにおける到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Communication Skills II Aでは、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 小テスト(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション (習熟度確認テスト) ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇シラバスを読んでください。英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してください。			
第2回	English training for communication(1) 小テスト				予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training for communication (2) 小テスト				予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training for communication (3) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Communication Skills II B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Communication Skills II B は、Communication Skills II A に引き続き、日常における様々な状況を想定し、コミュニケーションスキルをブラッシュアップすることを目的とする。ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど確認しながら)。								
【授業の到達目標】								
Communication Skills II A における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Communication Skills II B では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 小テスト(20%) 期末確認テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇シラバスを読んでください。			
第2回	English training for communication(1) 小テスト				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training for communication (2) 小テスト				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training for communication (3) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) 小テスト	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	作曲家の肖像と作品の魅力ⅠA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	山崎 明美	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
作曲家の肖像と作品の魅力ⅠA・Bでは、声楽曲を扱う。 歌とは何か、歌の可能性とは何か。時を超え、国を越えて私たちの耳に届く調べは、先人達の問いかけである。幅広く作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとり、新しい音の中にも脈々と流れている先人の足取りを辿る事で、自らの答えを導きだしていくことを授業の目的とする。ⅠAでは、約1600年から約1850年までを講義する。								
【授業の到達目標】								
クラシックの声楽曲の源流を理解できる。現代なお演奏される声楽曲の背景である時代、作曲家についての知識を持ち、必要に応じて調べることが出来る。 歴史を理解した上で、時代と共に変化する歌の捉え方を説明できる。歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べる事が出来る。以上のことを到達目標とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
作曲家及びその時代について教授し、視聴覚機器も用いる。準備学習の成果を発表する機会を設ける。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
各自が積極的に課題に取り組む必要がある。常に十分な準備学習を行い、発表の際は資料作成及び音源の選択もする事。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
成績評価は以下の三点により行う。 1. 授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど) 40% 2. 授業内でのプレゼンテーション 30% 3. 学期末の試験 30% 上記三項目のいずれもそろっていること。								
教科書	特定の教科書は用いない。授業の中で指示する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献	授業内で指示する。			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	はじめに 各回の講義におけるテーマについて				予習:シラバスを読んで各回の内容を把握しておく 復習:興味を持った内容について調べる。			
第2回	モンテヴェルディとパーセル その肖像と作品の魅力				予習:モンテヴェルディ、パーセルについて調べる またその声楽作品を聴く 復習:興味を持った視点(テーマ)について調べる。			
第3回	ヴィヴァルディとペルゴレージ その肖像と作品の魅力				予習:ヴィヴァルディ、ペルゴレージについて調べる。またその声楽作品を聴く 復習:興味を持った視点(テーマ)について調べる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	バッハとヘンデル その肖像と作品の魅力	予習: バッハ、ヘンデルについて調べる またその声楽作品を聴く。 復習: 時代を理解し、同時代の声楽曲を聴く。
第5回	グルックとハイドン その肖像と作品の魅力	予習: グルック、ハイドンについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 同時代の声楽作品を様々な演奏で聴く。
第6回	モーツァルト その肖像と作品の魅力	予習: モーツァルトについて調べる。多岐にわたる 声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を楽譜を見ながら聴く。
第7回	ベートーヴェン その肖像と作品の魅力	予習: ベートーヴェンについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を楽譜を見ながら聴く。
第8回	シューベルト その肖像と作品の魅力	予習: シューベルトについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った声楽作品を実際に歌ってみる。
第9回	ロッシーニ その肖像と作品の魅力	予習: ロッシーニについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を様々な演奏で聴く。
第10回	ドニゼッティとベッリーニ その肖像と作品の魅力	予習: ドニゼッティとベッリーニについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を様々な演奏で聴く。ベルカントとは何かをまとめる。
第11回	シューマンとメンデルスゾーン その肖像と作品の魅力	予習: シューマンとメンデルスゾーンについて調べる。またその声楽作品を聴く 復習: 女性作曲家についての説明を復習。また、興味を持った声楽作品を様々な演奏で聴く。
第12回	ヴァーグナー その肖像と作品の魅力	予習: ヴァーグナーについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 音楽の特徴を理解する。様々な演奏で聴く。
第13回	ヴェルディ その肖像と作品の魅力	予習: ヴェルディについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 一生涯にわたる作品を理解する。 様々な作品を聴く。
第14回	オッフェンバッハとJ. シュトラウス その肖像と作品の魅力	予習: オッフェンバッハとJ. シュトラウスについて調べる。またその声楽作品を聴く 復習: オペレッタについて理解する。興味を持った作品を歌ってみる。
第15回	まとめ	予習: 各回のテーマを振り返り、この授業から学んだ事をプレゼンテーションするための資料作成をする。

科目名(クラス)		作曲家の肖像と作品の魅力 I B		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全
担当教員		山崎 明美	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】									
作曲家の肖像と作品の魅力 I Aにおいては、約1600年から約1850年までの声楽曲について講義をした。 作曲家の肖像と作品の魅力 I Bは、それ以降の年代の声楽曲を扱う。 歌とは何か、歌の可能性とは何か。時を超え、国を越えて私たちの耳に届く調べと共に、先人達の問いかけは続く。ロマン派後期から近現代の大きなうねりの中にいた作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとりながら、自らの答えを導きだしていくことを授業の目的とする。									
【授業の到達目標】									
クラシックの声楽曲の近現代を理解することが出来る。現代声楽曲への大きな転換期でもあり、様々な試みが行われた近現代の声楽曲の背景である時代、作曲家についての知識を持ち、説明することが出来る。 歴史を理解した上で、時代と共に変化する歌の捉え方を説明できる。歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べる事が出来る。前期授業後との変化はあったのか。それは何故なのかを述べる事が出来る。以上を到達目標とする。									
【授業の「方法」と「形式」】									
作曲家及びその時代について教授し、視聴覚機器も用いる。準備学習の成果を発表する機会も設ける。									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
各自が積極的に課題に取り組む必要がある。常に十分な準備学習を行い、発表の際は資料作成及び音源の選択もする事。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
成績評価は以下の三点により行う。 1. 授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど) 40% 2. 授業内でのプレゼンテーション 30% 3. 学期末の試験 30% 上記三項目のいずれもそろっていること。									
教科書	特定の教科書は用いない。授業の中で指示する。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献	授業中で指示する。			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】									
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)				
第1回	作曲家の肖像とその作品の魅力 I Aの振り返りを行う				予習: I Bに入る前に、I Aの復習を行う。I Aのシラバスを読み準備をすること。 復習: 講義の中で興味を持った事柄についてさらに深く学ぶ。				
第2回	ブラームス その肖像と作品の魅力				予習: ブラームスについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 興味を持った切り口について 調べ、様々な演奏を聴く。				
第3回	サンサーンスとビゼー その肖像と作品の魅力				予習: サンサーンスとビゼーについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 他のフランスオペラを聴く。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ドヴォルザークとチャイコフスキー その肖像と作品の魅力	予習:ドヴォルザークとチャイコフスキーについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:地域的広がりを見せる西洋音楽のあり方を理解する。
第5回	フォーレとサティ その肖像と作品の魅力	予習:フォーレとサティについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:授業で扱った他のフランス作曲家の声楽曲を聴く。
第6回	レオンカヴァッロとマスカーニ その肖像と作品の魅力	予習:レオンカヴァッロとマスカーニについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:ヴェリズモオペラを理解し、様々な演奏で聴く。
第7回	プッチーニ その肖像と作品の魅力	予習:プッチーニについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:プッチーニのオペラを一本鑑賞する。
第8回	R. シュトラウス その肖像と作品の魅力	予習:R. シュトラウスについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:オペラ、歌曲共に今なお愛されるシュトラウスの演奏に触れる。
第9回	ヴォルフとマーラー その肖像と作品の魅力	予習:ヴォルフとマーラーについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:興味を持った曲を楽譜を見ながら聞く。
第10回	シェーンベルクとその時代 その肖像と作品の魅力	予習:シェーンベルクについて調べる。 どんな歌曲作品があるか調べる。 復習:同時代の他の作曲家の作品を様々な演奏で聴く。
第11回	シェーンベルクと弟子達 その肖像と作品の魅力	予習:シェーンベルクの弟子としてどんな作曲家がいるか調べる。 復習:弟子たちの作品を聴く。
第12回	シュレーカーとコルンゴルド その肖像と作品の魅力	予習:シュレーカーとコルンゴルドについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:時代の流れに消えなかった作品、再び演奏されるようになった課程を理解する。
第13回	ガーシュイン その肖像と作品の魅力	予習:ガーシュインについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:授業で取り上げたほかの作曲家の作品を聴く。
第14回	瀧廉太郎と山田耕筰 その肖像と作品の魅力	予習:瀧廉太郎と山田耕筰について調べる。その声楽曲を聴く。 復習:日本声楽作品の黎明期から発展期に移行する流れを整理しておく。
第15回	まとめ	予習:作曲家の肖像とその作品の魅力 I B で学んだ事を整理する。 復習:興味を持ち、様々な演奏を聴き、楽譜を見て、演奏してみる。

科目名(クラス)	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	中島 裕紀	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
・本授業は、パフォーマンス総合芸術文化専攻を対象とし、作曲家とその作品について、時代背景や人生など様々な角度で眺め、実際に音を聴きながら学ぶことを通して、音楽史上の事項を現代に生きる音楽として学習するものである。 ・ⅡAでは、ピアノ以前の楽器からピアノに至る鍵盤楽器の作品に関わる作曲家について扱う。 ・ⅡAにおいては、バロック期から古典期(移行期としてシューベルトを含む)の作曲家と音楽を中心に扱う。								
【授業の到達目標】								
・鍵盤楽器の変遷について理解することができる。 ・作曲家について興味を持ち、その人生や作品について音楽史とリンクさせて理解することができる。 ・学んだ知識を自らの音楽生活の中で生かし、発展させることができる。 ・授業で扱われた作曲家が生きた時代周辺における他の芸術文化との関連性に興味を持つことができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式を中心にアクティブなワーク学習を取り入れて授業を展開する。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・音楽に対して興味を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・授業で扱われた作曲家の様々な作品に興味を持ち、授業で扱った楽曲は、図書館などで全曲を聴いて、予習復習をする。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
セメスター終了時に提出するレポートの評価70%、毎回の授業における作業(ワーク)・提出物の評価30%の割合によって評価する。								
教科書	授業計画に沿ったテキストを用意する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献	すぐわかる！4コマピアノ音楽史 ピアノの誕生～古典派編			著者等	工藤 啓子(著)	出版社	ヤマハ・ミュージックメディア	
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	授業ガイダンス ・各回の授業内容について ・評価について ・授業を受けるための準備について ・第2回目の予告				予習・復習:シラバスを精読し、セメスターの授業内容を確認する。			
第2回	鍵盤楽器の変遷と鍵盤楽器に関わる作曲家				予習:鍵盤楽器の歴史について調べる。 復習:授業内容の確認と整理。			
第3回	バロック期以前～バロック期の鍵盤音楽の特徴と様々な作曲家				予習:バロック期の音楽について調べる。 復習:授業内容を確認し、扱った楽曲を聴く。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	J.S.バッハの生涯と作品1	予習: J.S.バッハについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第5回	J.S.バッハの生涯と作品2	予習: J.S.バッハについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第6回	G.F.ヘンデルの生涯と作品	予習: G.F.ヘンデルについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第7回	D.スカルラッティの生涯と作品	予習: D.スカルラッティについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第8回	古典期の鍵盤音楽の特徴と様々な作曲家	予習: 古典期の音楽について調べる。 復習: 授業内容を確認し、扱った楽曲を聴く。
第9回	F.J.ハイドンの生涯と作品	予習: F.J.ハイドンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第10回	W.A.モーツァルトの生涯と作品1	予習: W.A.モーツァルトについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第11回	W.A.モーツァルトの生涯と作品2	予習: W.A.モーツァルトについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第12回	L.v.ベートーヴェンの生涯と作品1	予習: L.v.ベートーヴェンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第13回	L.v.ベートーヴェンの生涯と作品2	予習: L.v.ベートーヴェンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第14回	F.シューベルトの生涯と作品	予習: F.シューベルトについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第15回	まとめ	予習・復習: 今期の内容を整理する。

科目名(クラス)	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	中島 裕紀	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】							
・本授業は、パフォーマンス総合芸術文化専攻を対象とし、作曲家とその作品について、時代背景や人生など様々な角度で眺め、実際に音を聴きながら学ぶことを通して、音楽史上の事項を現代に生きる音楽として学習するものである。 ・ⅡBでは、主にピアノを中心とした鍵盤楽器の作品に関わる作曲家について扱う。 ・ⅡBにおいては、ロマン期から現代に至る作曲家と音楽を中心に扱う。							
【授業の到達目標】							
・ロマン期以降のピアノ音楽の変遷について理解することができる。 ・作曲家について興味を持ち、その人生や作品について音楽史とリンクさせて理解することができる。 ・学んだ知識を自らの音楽生活の中で生かし、発展させることができる。 ・授業で扱われた作曲家が生きた時代周辺における他の芸術文化との関連性に興味を持つことができる。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義形式を中心にアクティブなワーク学習を取り入れて授業を展開する。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
・音楽に対して興味を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・授業で扱われた作曲家の様々な作品に興味を持ち、授業で扱った楽曲は、図書館などで全曲を聴いて、予習復習をする。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
セメスター終了時に提出するレポートの評価70%、毎回の授業における作業(ワーク)・提出物の評価30%の割合によって評価する。							
教科書	授業計画に沿ったテキストを用意する。	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	すぐわかる！4コマピアノ音楽史 ロマン派～20世紀	著者等	工藤 啓子(著)	出版社	ヤマハ・ミュージックメディア		
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	授業ガイダンス ・各回の授業内容について ・評価について ・授業を受けるための準備について ・第2回目の予告			予習・復習:シラバスを精読し、セメスターの授業内容を確認する。			
第2回	ロマン期のピアノ音楽の特徴と作曲家			予習:ロマン期の音楽について調べる。 復習:授業内容を確認し、扱った楽曲を聴く。			
第3回	F.メンデルスゾーンの生涯と作品			予習:F.メンデルスゾーンについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	F.ショパンの生涯とピアノ曲1	予習:F.ショパンについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第5回	F.ショパンの生涯とピアノ曲2	予習:F.ショパンについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第6回	F.ショパンの生涯とピアノ曲3	予習:F.ショパンについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第7回	R.シューマンの生涯と作品1	予習:R.シューマンについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第8回	R.シューマンの生涯と作品2	予習:R.シューマンについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第9回	F.リストの生涯と作品	予習:F.リストについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第10回	J.ブラームスの生涯と作品	予習:J.ブラームスについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第11回	近代以降のピアノ音楽の特徴と作曲家	予習:近代以降の音楽について調べる。 復習:授業内容を確認し、扱った楽曲を聴く。
第12回	G.フォーレの生涯と作品	予習:G.フォーレについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第13回	C.ドビュッシーの生涯と作品	予習:C.ドビュッシーについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第14回	M.ラヴェルの生涯と作品	予習:M.ラヴェルについて調べる。 復習:授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第15回	まとめ	予習・復習:今期の内容を整理する。

科目名(クラス)	西洋音楽史A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	信田 かずお	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】		音楽のボーダーレス化が著しい今。特に、ポップス領域として、「洋楽の歴史」を主体とした解説により、音楽の多様性に対する柔軟な対応力を養うことは、プロデュースするための実践力に繋がります。この授業では、1940年から2000年代までのアメリカ、EUのあらゆるジャンルのポップス音楽を紹介すると同時に、各国のトレンド音楽にも着目し、試聴していく。						
【授業の到達目標】		幅広い欧州のポップス音楽の変遷を見聞き音楽知識を高めることで、プロデュース、およびディレクション能力を身につける。						
【授業の「方法」と「形式」】		講義形式とともに、実践で当時の楽曲の作編曲の方法等を講義。また、CDやyoutube等を使用し動画と音楽をリンクさせる。						
【履修時の「留意点」と「心得」】		毎回の授業で各音楽ジャンルの印象や感想などをノートにまとめて下さい。						
【成績評価の「方法」と「基準」】		課題による評価(70%)及び、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。						
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	1940年から50年代のアメリカンポップ、オールデイズ等とその時代背景など検証。			予習:シラバスを読んでおく				
第2回	その2と、エレキバンドの登場、ベンチャーズ他。			予習:前回の授業をまとめておく。 復習:今回の授業をノートにまとめる。				
第3回	その3と、ジャズコンテンツの歴史。ビッグバンド、コンボバンド。デイキシーランド。			予習:前回の授業をまとめておく。 復習:今回の授業をノートにまとめる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	その4と、スタンダードナンバーとは、ジャズボーカル、ジャズコーラスの歴史。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第5回	1960年代ビートルズの登場とグループサ운드。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第6回	その2、ローリングストーンズ他のロックバンド等を紹介。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第7回	その3と、イタリア、フランスのポップ。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第8回	フォークソング、カントリー音楽。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第9回	1960年代ビートルズの登場とグループサ운드。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第10回	その2と、モータウン音楽フランク音楽。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第11回	その3と、過去のグラミー賞受賞音楽。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第12回	1970年代ヒット曲。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第13回	その2とブルスロック。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第14回	1980年代ヒット曲。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第15回	その2と現代各国トレンド試聴。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。

科目名(クラス)	西洋音楽史B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	信田 かずお	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
音楽のボーダーレス化が著しい今。特に、ポップス領域として、「洋楽の歴史」を主体とした解説により、音楽の多様性に対する柔軟な対応力を養うことは、プロデュースするための実践力に繋がります。この授業では、1940年から2000年代までのアメリカ、EUのあらゆるジャンルのポップス音楽を紹介すると同時に、各国のトレンド音楽にも着目し、試聴していく。								
【授業の到達目標】								
幅広い欧州のポップス音楽の変遷を見聞し音楽知識を高めることで、プロデュース、およびディレクション能力を身につける。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式とともに、実践で当時の楽曲の作編曲の方法等を講義。また、CDやyoutube等を使用し動画と音楽をリンクさせる。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
毎回の授業で各音楽ジャンルの印象や感想などをノートにまとめて下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による評価(70%)及び、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。								
教科書				著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	ラテン音楽、ボサノヴァ。現代各国トレンド試聴。				予習:シラバスを読んでおく			
第2回	その2				予習:前回の授業をまとめておく。 復習:今回の授業をノートにまとめる。			
第3回	その3				予習:前回の授業をまとめておく。 復習:今回の授業をノートにまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ダンス音楽コンテンツ、ラップ。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第5回	その2とアルゼンチンタンゴ。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第6回	その3と、歴代ミリオンヒット曲試聴。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第7回	1900年代ヒットポップとAOR, ブラコンとは。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第8回	その2と、各国トレンドポップ。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第9回	その3。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第10回	アメリカアニメ音楽の歴史。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第11回	その2	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第12回	映画音楽アメリカ、ヨーロッパメインテーマ。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第13回	その2と、映画音楽作曲家。	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第14回	その3と、CM音楽	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。
第15回	総まとめ	予習: 前回の授業をまとめておく。 復習: 今回の授業をノートにまとめる。

科目名(クラス)	東洋音楽史A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	櫻田 素子	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
・日本が位置する「東洋」における音楽を、人間の営みという観点から多角的にとらえ、歴史の流れに沿いながら学びます。 ・東洋を広義的にとらえ、アジアを中心に、非西洋世界であるオセアニア、アフリカ、アメリカ地域も含めて扱います。 ・現在、日本で盛んに行われている、アジアとの文化交流を含むグローバルな音楽活動の基礎となる幅広い音楽知識を身につけ、音楽と人間に関する理解を深めて、柔軟な音楽観を養うことを目指します。								
【授業の到達目標】								
・東洋、非西洋のさまざまな音楽の成り立ちや構成要素、音楽理論を知ること、音楽全般をいくつかの視点から考察して深く理解することができるようになる。 ・授業を通して得た知識や理解を活用し、自らの考察の展開や表現活動に活かすことができるようになる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義と音源・映像資料の視聴、楽器の実物紹介や実演体験、学生と教員によるディスカッションも随時取り入れて行なう。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・講義や資料の視聴の際には、自らの感じたことや意見などもこまめにメモを取り、集中して考えながら授業にのぞむこと。 ・授業内で紹介する視聴覚資料をはじめ、関連する音楽を幅広くよく見聴きすること。 ・各地域の音楽の魅力や音楽の在り方を探求する後期の授業「東洋音楽史B」と合わせて履修し、知識の獲得と理解を深めましょう。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・期末レポート提出(50%) ・毎回の授業内においてのディスカッション等における発言内容、小レポート、実技等の課題への取り組みなど(50%)								
教科書	民族音楽学12の視点		著者等	徳丸吉彦 監修 増野亜子 編		出版社	音楽之友社	
教科書	適宜プリントを配布		著者等			出版社		
参考文献	事典世界音楽の本		著者等	徳丸吉彦 他		出版社	岩波書店	
参考文献	はじめての世界音楽		著者等	柘植元一 塚田健一 編		出版社	音楽之友社	
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	はじめに～「ワールド・ミュージックス」における東洋、非西洋			予習:シラバスを読み、各回の内容を確認しておく。「世界の音楽」について自分の知っていることを整理しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。				
第2回	東洋の音楽を識る・考える基礎(1)～音・音響・環境と人、「行為する音楽＝ミュージッキング」			予習:音響とは何かについて、事典などで調べる。日常の中でどのような音や音楽が聞こえてくるか、自分なりに検証してくる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。				
第3回	東洋の音楽を識る・考える基礎(2)～リズムと身体(足、手、声)			予習:リズムとは何かについて、事典や専門書を自分なりに調べ、また、音楽と身体の関係性について、自分の音楽経験を基に考察しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	東洋の音楽を識る・考える基礎(3)～音程・音律・旋律	予習:音律とは何かについて、事典などで調べる。テキストの中の関連ある事項を読んでおく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第5回	東洋の音楽を識る・考える基礎(4)～伝承の方法、記譜法	予習:五線譜以外の楽譜について、自らが経験したことがあれば、それを授業に持参するよう準備する。テキストの中で関連する項目を読んでおく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第6回	東洋の音楽を識る・考える基礎(5)～社会と音楽、芸術と大衆娯楽	予習:社会において音楽はどのような役割を果たしているか、自分なりに考えておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第7回	東洋の音楽を識る・考える基礎(6)～舞踊・芸能と音楽	予習:「芸能とは何か」について、事典などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第8回	東洋の音楽の時空をたどる(1)～儀礼と宗教	予習:「儀礼」とは何か、世界に存在する宗教にはどんなものがあるか、事典や関連資料を調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第9回	東洋の音楽の時空をたどる(2)～世界史・東洋史と音楽	予習:世界の歴史の概要について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第10回	東洋の音楽の時空をたどる(3)～楽器の伝播	予習:前回紹介した楽器についての文献や資料を読み、視聴しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第11回	非西洋としての東洋(1)～オセアニアの音楽の歩み	予習:オセアニアの地理、気候、文化の概要について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深め、知識を広げる。
第12回	非西洋としての東洋(2)～アフリカ大陸の音楽の歩み	予習:アフリカの地理、気候、文化の概要について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深め、知識を広げる。
第13回	非西洋としての東洋(3)～北・中央・南アメリカの音楽の歩み	予習:北米・中米・南米の地理、気候、文化の概要について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深め、知識を広げる。
第14回	21世紀の東洋音楽の行方～グローバリゼーション、フュージョン文化	予習:日本におけるフュージョン音楽はどんなものがあるか、自分の興味ある音楽を入りに探り、授業で発表する準備をする。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第15回	まとめ～「音楽する」人間の歩み	予習:これまでの授業の内容を振り返り、疑問点があれば整理しておく。 復習:授業で学んだことを活用し、音楽のとらえ方や表現手法について、さまざまな視点からの探求を続ける。

科目名(クラス)	東洋音楽史B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	全
担当教員	櫻田 素子	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
・日本が位置する「東洋」における音楽を、アジア各地域に焦点をあて、歴史の流れに沿いながら学びます。 ・メディアの発達による情報の世界同時性化に伴い、音楽も、文化のグローバル化の波に影響される一方で、再度クローズアップされるのは個性あふれるローカルな音楽。アジア各地の音楽の魅力を発見し、その特徴的な音楽理論や音楽観などについての知識も探求します。								
【授業の到達目標】								
・東洋(アジア各地域)の特徴的な音楽の成り立ちや構成要素、音楽理論を知り、各種の音楽がその地に生きている人々の文化と密接に結びついて発展、継承されてきたことを深く理解する。 ・授業を通して得た知識や理解を活用し、自らの考察の展開や表現活動に生かすことができるようになる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義と音源・映像資料の視聴、楽器の実物紹介や実演体験、学生と教員によるディスカッションも随時取り入れて行なう。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・講義や資料の視聴の際には、自らの感じたことや意見などもこまめにメモを取り、集中して考えながら授業にのぞむこと。 ・授業内で紹介する視聴覚資料をはじめ、関連する音楽を幅広くよく見聴きすること。 ・東洋の音楽を基礎から多角的な視点で分析する前期の授業「東洋音楽史A」と合わせて履修し、より広く深い学びに繋げましょう。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・期末レポート提出(50%) ・毎回の授業内におけるディスカッション等における発言内容、小レポート、実技等の課題への取り組みなど(50%)								
教科書	はじめての世界音楽	著者等	柘植元一 塚田健一 編	出版社	音楽之友社			
教科書	適宜プリントを配布	著者等		出版社				
参考文献	民族音楽学12の視点	著者等	徳丸吉彦 監修 増野亜子 編	出版社	音楽之友社			
参考文献	民族音楽概論	著者等	藤井知昭 他 編	出版社	東京書籍			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	はじめに～東洋をローカルに見つめる～この授業で学ぶこと			予習:シラバスを読み、各回の内容を確認しておく。アジアの中で興味のある地域や音楽について自分なりに調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。				
第2回	人と音楽の歩み<西アジア>～古代オリエントから現代まで			予習:西アジアの地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。				
第3回	人と音楽の歩み<北・中央アジア>～シベリア・モンゴル			予習:北・中央アジアの地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	人と音楽の歩み<中国(1)>～古代・中世	予習:中国の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第5回	人と音楽の歩み<中国(2)>～近現代	予習:前回に紹介した文献を読む。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第6回	人と音楽の歩み<中国(3)>～少数民族	予習:中国の少数民族が暮らす地域について、地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第7回	人と音楽の歩み<朝鮮半島>～韓国	予習:朝鮮半島の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第8回	人と音楽の歩み<南アジア>～インド	予習:インドとその周辺地域の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第9回	人と音楽の歩み<東南アジア・大陸部>(1)ベトナム・ミャンマー・ラオス・タイ	予習:インドシナ半島の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第10回	人と音楽の歩み<東南アジア・大陸部>(2)カンボジア・マレーシア・シンガポール	予習:前回に紹介した文献を読む。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第11回	人と音楽の歩み<東南アジア・島嶼部>(1)インドネシアのガムラン	予習:インドネシアの地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第12回	人と音楽の歩み<東南アジア・島嶼部>(2)インドネシアの諸民族・フィリピン	予習:フィリピンの地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第13回	人と音楽の歩み<台湾、琉球(沖縄)>	予習:台湾と沖縄の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第14回	東洋における日本～フュージョンするアートと知	予習:前回に紹介した文献を読む。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第15回	まとめ～東洋とそれぞれの「私」	予習:これまでの授業の内容を振り返り、疑問点があれば整理しておく。 復習:授業で学んだことを活用し、東洋の音楽とその音楽を生み出す人々の営みについて、さまざまな視点からの探求を続ける。

科目名(クラス)	日本音楽史A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	阿部 雅士	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
歌い継がれてきた日本の音楽の変遷を分析し 展開します。音楽のジャンルは明治以降からの童謡、民謡、歌謡曲、ムード歌謡、和製ポップス、GS、フォーク、ニューミュージック、J-POP、邦ロックなど今に至るまでの日本の楽曲を中心に取り上げる。それは多くのアーティストの音楽制作や同じステージに関わった経験からの新しい目線、切り口で取り上げ、その上に音楽の様々な見方、ユーザー(聴衆等)からの反応やメッセージの交換などを捉え授業を展開する。								
【授業の到達目標】								
日本の音楽の歩みや仕組の変化等を知り事により 幅広く視野を広げ 日本の音楽のシーンで役に立つ分析力、応用力を付ける事。それにより音楽シーンを広める色々なアイデアとともに、日本のエンタメ系音楽の変遷を知る事により世界に通用するエンタメはなにか?を描ける力を身につける。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主です。(DVD,CD等の鑑賞も取り入れます)								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
いろいろな年代に話題になった曲やアーティスト曲や名前、それに多様な部分に興味を持って欲しい。その時アーティストの想いや聞く人の想いとは何か? 更には「社会と音楽」、「時代と音楽」と観察する事を始めてほしい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度(30%)。								
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	音楽に対する見方とスタンス。流行歌の始まり。			予習:シラバスを読んでおく。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第2回	日本の音楽の変遷と録音物①(昭和の前半まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第3回	日本の音楽の変遷と録音物②(1970年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第4回	歌手、作家① (1970年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第5回	日本の音楽の変遷と録音物③(1990年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第6回	日本の音楽の変遷と録音物④(1990年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第7回	歌手、作家②(1990年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第8回	レコーディングの変遷①(1990年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第9回	レコーディングの変遷②コンサートの変遷(1990年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第10回	日本の音楽の変遷と録音物⑤(2000年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第11回	日本の音楽の変遷と録音物⑥(2000年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第12回	歌手、作家③(2000年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第13回	歌手、作家④(2000年頃まで)			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第14回	1900年代音楽の財産			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				
第15回	ヒット曲とランキング			予習:前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習:今回の授業の内容をまとめる。				

科目名(クラス)	日本音楽史B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	阿部 雅士	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】		歌い継がれてきた日本の音楽の変遷を分析し 展開します。音楽のジャンルは明治以降からの童謡、民謡、歌謡曲、ムード歌謡、和製ポップス、GS、フォーク、ニューミュージック、J-POP、邦ロックなど今に至るまでの日本の楽曲を中心に取上げる。それは多くのアーティストの音楽制作や同じステージに関わった経験からの新しい目線、切り口で取り上げ、その上に音楽の様々な見方、ユーザー（聴衆等）からの反応やメッセージの交換などを捉え授業を展開する。それとともに 音楽プロデューサーやディレクターとして、演奏家の立場や権利を知る事は重要で、そういった観点から「演奏家・アーティストの知的財産権の中の著作権、著作隣接権」の授業も展開します。						
【授業の到達目標】		日本の音楽の歩みや仕組の変化等を知り事により 幅広く視野を広げ 日本の音楽のシーンで役に立つ分析力、応用力を付ける事。それにより音楽シーンを広める色々なアイデアとともに、日本のエンタメ系音楽の変遷を知る事により世界に通用するエンタメはなにか？を描ける力を身につける。						
【授業の「方法」と「形式」】		講義形式が主です。(DVD,CD等の鑑賞も取り入れます)						
【履修時の「留意点」と「心得」】		いろいろな年代に話題になった曲やアーティスト曲や名前、それに多様な部分に興味を持って欲しい。その時アーティストの想いや聞く人の想いとは何か？更には「社会と音楽」、「時代と音楽」と観察する事を始めてほしい。						
【成績評価の「方法」と「基準」】		課題による採点（70%）及び、授業への積極性、受講態度（30%）。						
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習（予習・復習）			
第1回	日本の音楽の変遷と録音物⑦（2010年頃まで）				予習：シラバスを読んでおく。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第2回	日本の音楽の変遷と録音物⑧（2010年頃まで）				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	歌手、作家⑤（～2010年頃まで）				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第4回	歌手、作家⑥（～2010年頃まで）				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第5回	レコーディングの変遷③（2010年頃まで）				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第6回	レコーディングの変遷④コンサートの変遷（2010年頃まで）				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第7回	日本の音楽の変遷と録音物⑨（2010年以降）				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第8回	歌手、作家⑦（2010年以降）				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第9回	ヒット曲とランキング				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第10回	レコーディングの変遷とミュージシャン①				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第11回	楽器、デジタル、アナログ①				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第12回	音楽とAI				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第13回	知的財産権①				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第14回	今の音楽とライブとメディアの関係				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			
第15回	これからの音楽の世界				予習：前回の授業の内容を自分なりにまとめる。 復習：今回の授業の内容をまとめる。			

科目名(クラス)	日本の伝統音楽概説A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	馬場 信子	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
専門知識を必要とする和楽器の中で、身近で扱いやすい楽器のひとつである箏を主に取り上げ、奏法や歴史を学びます。また、古来から培われ、現代に伝わる日本の美しい伝統について、様々なジャンルの伝統音楽史を通して概説します。								
【授業の到達目標】								
日本音楽の伝統的な器楽種目のひとつである地歌箏曲の実技について、楽器の構造と取り扱い方、楽譜の読み方、伝統的かつ基本的な演奏方法などを習得し、日本伝統音楽を身近に感じ、奏法を身につけることを目標とし、最も基本的な練習曲「さくら」から、最終的には古典の名曲「六段の調」を楽しく演奏出来るよう目指します。更に地歌の発声について学び、邦楽独特の発声法についても習得します。また今日に至る箏曲の歴史を学び、知識を深めながら、幅広い箏曲の可能性について、共に考える時間を持ち、これからの日本音楽の未来を担う若い世代に邦楽の魅力と楽しさを伝えることを目標とします。そして、日本伝統音楽を身近に感じ、和楽器に対する理解を深めます。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式と、楽器を用いた実技形式が主です。(DVD,CD等の鑑賞も取り入れます)								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
伝統楽器を学ぶことにより、古来より培われてきた様々な大切な伝統も自然に身に付けられるようにと考えます。遅刻早退は原則的に認めません。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度(30%)。								
教科書	六段の調		著者等	八橋 検校	出版社	邦楽社		
教科書	三段の調べ		著者等	久本 玄智	出版社	前川出版社		
参考文献			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	オリエンテーション			復習:授業の内容を自分なりにまとめる。				
第2回	楽器の構造と名称、付属品を含む取り扱い方について			予習:前回は振り返りまとめる。 復習:今回の授業の内容を自分なりにまとめる。				
第3回	箏曲の調弦			予習:前回は振り返りまとめる。 復習:今回の授業の内容を自分なりにまとめる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	箏曲の楽譜の読み方	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第5回	構え方と爪を使った基本的な奏法	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第6回	練習曲による基本的な演奏「さくら」	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第7回	「三段の調べ」の演奏(出版社の違いによる楽譜の見方)	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第8回	伝統的な型を用いた奏法	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第9回	古典「六段の調」の演奏 ①	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第10回	音階について	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第11回	古典「六段の調」の演奏 ②	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第12回	箏曲の歴史を概説	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第13回	古典「六段の調」の演奏 ③	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第14回	アジア圏における箏の比較	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第15回	古典「六段の調」の演奏 ④	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。

科目名(クラス)	日本の伝統音楽概説B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	馬場 信子	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
前期に続き、専門知識を必要とする和楽器の中で、身近で扱いやすい楽器のひとつである箏を主に取り上げ、奏法や歴史を学びます。また、古来から培われ、現代に伝わる日本の美しい伝統について、様々なジャンルの伝統音楽史を通して概説します。								
【授業の到達目標】								
日本音楽の伝統的な器楽種目のひとつである地歌箏曲の実技について、楽器の構造と取り扱い方、楽譜の読み方、伝統的かつ基本的な演奏方法などを習得し、日本伝統音楽を身近に感じ、奏法を身につけることを目標とし、最も基本的な練習曲「さくら」から、最終的には古典の名曲「六段の調」を楽しく演奏出来るよう目指します。更に地歌の発声について学び、邦楽独特の発声法についても習得します。また今日に至る箏曲の歴史を学び、知識を深めながら、幅広い箏曲の可能性について、共に考える時間を持ち、これからの日本音楽の未来を担う若い世代に邦楽の魅力と楽しさを伝えることを目標とします。そして、日本伝統音楽を身近に感じ、和楽器に対する理解を深めます。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式と、楽器を用いた実技形式が主です。(DVD,CD等の鑑賞も取り入れます)								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
伝統楽器を学ぶことにより、古来より培われてきた様々な大切な伝統も自然に身に着けられるようにと考えます。遅刻早退は原則的に認めません。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度(30%)。								
教科書	教官が作成した資料に基づく			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	古典「六段の調」の演奏 ⑤				復習:授業の内容を自分なりにまとめる。			
第2回	地歌の発声、小曲の演奏 ①				予習:前回は振り返りまとめる。 復習:今回の授業の内容を自分なりにまとめる。			
第3回	地歌の発声、小曲の演奏 ②				予習:前回は振り返りまとめる。 復習:今回の授業の内容を自分なりにまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	邦楽全般の中における箏曲の特徴と比較について	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第5回	三曲合奏について	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第6回	古典「六段の調」他の演奏(合奏) ①	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第7回	邦楽全般の中における箏曲の特徴と比較について	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第8回	古典「六段の調」他の演奏(合奏) ②	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第9回	日本音楽史概説 ①	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第10回	日本音楽史概説 ②	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第11回	古典「六段の調」他の演奏(合奏) ③	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第12回	古典「六段の調」他の演奏(合奏) ④	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第13回	日本音楽史概説 ③	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第14回	古典「六段の調」他の合奏 ⑤	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。
第15回	まとめ	予習: 前回は振り返りまとめる。 復習: 今回の授業の内容を自分なりにまとめる。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論 A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	齋藤 順	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
音楽が好きで将来それに関わる仕事がしたい、あるいは舞台芸術の世界に興味があるので音楽の基礎知識を携えたいというとき、まず何を学べば良いか判らないという方々のために、最低限これは知っておくべき音楽の基礎知識を楽しく学べる授業です。								
【授業の到達目標】								
楽譜に書いてある音程、リズムや記号など、音楽に必要な常識的なことが理解出来て、音楽への新たな興味が深まる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式。教科書は特に使用せず、ピアノなど(その他の楽器)を使って説明する								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
この授業は飽くまで音楽基礎知識を学ぶクラスで、判らない学生のレベルに合わせて進行するため、最初から理解している生徒も復習を兼ねて真摯に取り組んで頂くことをお願い致します。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、授業態度を総合的に評価する。								
教科書	各回で指示をする。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	イタリア音名、音階				復習: 今回の授業の内容をまとめる。			
第2回	アメリカ音名、音階				予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	ドイツ音名、音階				予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	日本音名、音階	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	全ての音名、音階	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	音符の種類と名前	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	音符の種類と使い方	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	休符の種類と名前	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	休符の種類と使い方	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	音符と休符の使い方	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	音符によるリズム訓練	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	リズム訓練2	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	音符と音階1	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	音符と音階2	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	音符と音階総集編	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論 B(基礎和声を含む)	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	齋藤 順	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】							
音楽が好きで将来それに関わる仕事がしたい、あるいは舞台芸術の世界に興味があるので音楽の基礎知識を携えたいというとき、まず何を学べば良いか判らないという方々のために、最低限これは知っておくべき音楽の基礎知識を楽しく学べる授業です。							
【授業の到達目標】							
楽譜に書いてある音程、リズムや記号など、音楽に必要な常識的なことが理解出来て、音楽への新たな興味が深まる。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義形式。教科書は特に使用せず、ピアノなど(その他の楽器)を使って説明する。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
この授業は飽くまで音楽基礎知識を学ぶクラスで、判らない学生のレベルに合わせて進行するため、最初から理解している生徒も復習を兼ねて真摯に取り組んで頂くことをお願い致します。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、授業態度を総合的に評価する。							
教科書	各回で指示をする。	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	へ音記号の音階			復習: 今回の授業の内容をまとめる。			
第2回	調号# b 1, 1長調, へ長調			予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	調号2, 二長調, 変口長調			予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	調号3,イ長調,変ホ長調	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第5回	調号4,ホ長調,変イ長調	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第6回	音名と階名	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第7回	4分の2拍子,4分の3拍子	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第8回	8分の6拍子	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第9回	音楽用語	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第10回	和音について	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第11回	和音とコードネーム	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第12回	メロディー,和音,リズム1	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第13回	メロディー,和音,リズム2	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第14回	みんなでライブ演奏1(既存の曲で)	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。
第15回	みんなでライブ演奏2(既存の曲で)	予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	音楽心理学A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	佐々木 和佳	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
音楽および演奏や音楽聴取等の音楽行動を心理学的な視点から捉えようとする音楽心理学について、さまざまな研究を通して概観する。それぞれのテーマについて、普段親しんでいる音楽や演奏を振り返りながら考えることにより、音楽と関わっていく上での視点を幅広いものとする。 専門的な用語、研究手法についてもわかりやすく解説する。								
【授業の到達目標】								
人間と音楽の関係についてのさまざまな研究を通して、音楽および音楽行動に関する理解を深める。また、自身の音楽活動に活かせるようになることを目標とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式、グループワークを行うこともあります。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・自らが考えることに重点を置いています。発言等、積極的な授業参加を望みます。 ・遅刻、途中退席は原則として認めません。欠席をした場合には、出席した人に資料やノートを見せてもらい、休んだ回の内容を把握した上で講義へ望んでください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・授業への積極性(発言、課題レポートへの取り組み) 50% ・定期試験:レポート 50%								
教科書	音楽心理学入門		著者等	星野悦子 編著	出版社	誠信書房		
教科書			著者等		出版社			
参考文献	音の世界の心理学 第2版		著者等	重野純	出版社	ナカニシヤ出版		
参考文献	音は心の中で音楽になる 音楽心理学への招待		著者等	谷口高士	出版社	北大路書房		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	オリエンテーション:音楽を学ぼうと思った動機、自身の音楽との関係を振り返る			予習:音楽を学ぼうと思った動機を考える。 復習:自身の音楽との関係についてまとめる。				
第2回	音楽心理学とは何か①(音楽心理学の定義、方向性、歴史)			予習:第1章 第1節～第3節を読んでくる。 復習:音楽心理学の定義より音楽心理学とはどのようなものであるかまとめる。				
第3回	音楽心理学とは何か②(音楽心理学の研究領域、研究法)			予習:第1章 第4節・第5節を読んでくる。 復習:それぞれの研究法の特徴をまとめる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽と音響(音の物理的特徴、音を知覚する生理的な仕組み、音の強さの尺度、聴覚に固有な事象、音律と協和)	予習:第2章 第1節～第5節を読んでくる。 復習:音の基本的な性質や音響の特徴についてまとめる。
第5回	楽音の知覚①(音の大きさ、音の高さ)	予習:第3章 第1節・第2節を読んでくる。 復習:音の大きさ、音の高さから私たちが受ける影響についてまとめる。
第6回	楽音の知覚②(音色、音楽の印象判断)	予習:第3章 第3節・第4節を読んでくる。 復習:音色から私たちが受ける影響についてまとめる。
第7回	音楽の認知①(メロディの認知、楽音の群化とパターンの認知、旋律パターンの認知)	予習:第4章 第1節～第3節を読んでくる。 復習:音楽の認知について学んだことをまとめてみる。
第8回	音楽の認知②(拍節・リズムの認知、調性の認知、旋律の分析と期待)	予習:第4章 第4節～第6節を読んでくる。 復習:音楽の認知について学んだことをまとめてみる。
第9回	音楽の記憶①(記憶の心理学、音楽の短期記憶、音楽の長期記憶)	予習:第5章 第1節～第3節を読んでくる。 復習:音楽の記憶について学んだことをまとめてみる。
第10回	音楽の記憶②(音楽の潜在記憶、音楽・記憶・ライフサイクル)	予習:第5章 第4節・第5節を読んでくる。 復習:音楽の記憶について学んだことをまとめてみる。
第11回	音楽と他の認知能力①(音楽の聴取と認知能力)	予習:第6章 第1節を読んでくる。 復習:音楽を聞く(聴く)ことと認知能力についてまとめてみる。
第12回	音楽と他の認知能力②(モーツァルト音楽への心理的反応、長期の音楽教育・訓練と一般認知能力)	予習:第6章 第2節～第4節を読んでくる。 復習:音楽学習(訓練・レッスン)と認知能力についてまとめてみる。
第13回	音楽と感情①(音楽と感情の関係、音楽が表す感情)	予習:第7章 第1節・第2節を読んでくる。 復習:音楽と感情についてまとめる。
第14回	音楽と感情②(音楽による感情の喚起、音楽的感情)	予習:第7章 第3節・第4節を読んでくる。 復習:音楽と感情についてまとめる。
第15回	本科目の総括(振り返り)	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:授業で学んだことを音楽活動へ活かせるようにする。

科目名(クラス)	音楽心理学B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	佐々木 和佳	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
音楽および演奏や音楽聴取等の音楽行動を心理学的な視点から捉えようとする音楽心理学について、さまざまな研究を通して概観する。それぞれのテーマについて、普段親しんでいる音楽や演奏を振り返りながら考えることにより、音楽と関わっていく上での視点を幅広いものとする。 専門的な用語、研究手法についてもわかりやすく解説する。								
【授業の到達目標】								
人間と音楽の関係についてのさまざまな研究を通して、音楽および音楽行動に関する理解を深める。また、自身の音楽活動に活かせるようになることを目標とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式、グループワークを行うこともあります。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・自らが考えることに重点を置いています。発言等、積極的な授業参加を望みます。 ・遅刻、途中退席は原則として認めません。欠席をした場合には、出席した人に資料やノートを見せてもらい、休んだ回の内容を把握した上で講義へ望んでください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・授業への積極性(発言、課題レポートへの取り組み) 50% ・定期試験:レポート 50%								
教科書	音楽心理学入門			著者等	星野悦子 編著	出版社	誠信書房	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	音の世界の心理学 第2版			著者等	重野純	出版社	ナカニシヤ出版	
参考文献	音は心の中で音楽になる 音楽心理学への招待			著者等	谷口高士	出版社	北大路書房	
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	音楽行動の発達①(音楽行動の発達とは、乳児期の音楽行動、幼児期の音楽行動)				予習:第8章 第1節～第3節を読んでも。 復習:それぞれの発達段階での音楽行動についてまとめる。			
第2回	音楽行動と発達②(児童期の音楽行動、青年期の音楽行動、演奏技術習得と音楽専門家への発達)				予習:第8章 第4節～第6節を読んでも。 復習:それぞれの発達段階での音楽行動についてまとめる。			
第3回	音楽と脳①(脳研究の基本事項)				予習:第9章 第1節を読んでもくる。 復習:脳の各部位の働きをまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽と脳②(音楽の知覚・認知、演奏、感情の脳活動)	予習:第9章 第2節～第4節を読んでくる。 復習:音楽と脳の活動をまとめる。
第5回	演奏の心理①(演奏の実証的研究)	予習:第10章 第1節を読んでくる。 復習:演奏心理学についてまとめる。
第6回	演奏の心理②(演奏を生み出す心と身体)	予習:第10章 第2節を読んでくる。 復習:演奏者の心と身体についてまとめる。
第7回	音楽の社会心理学①(音楽の社会心理学とは、性格と音楽行動)	予習:第11章 第1節・第2節を読んでくる。 復習:性格と音楽行動についてまとめる。
第8回	音楽社会心理学②(ジェンダーと音楽、社会の中での音楽の役割、音楽の好みと社会との関係、音楽についての語りのアイデンティティ)	予習:第11章 第3節～第6節を読んでくる。 復習:社会の中での音楽の役割についてまとめる。
第9回	音楽療法①(音楽心理学と音楽療法、音楽療法の歴史)	予習:第12章 第1節～第3節を読んでくる。 復習:音楽療法とはどのようなものであるかまとめる。
第10回	音楽療法②(障害児者領域)	予習:知的障害・発達障害について調べる。 復習:講義内で学んだことをまとめる。
第11回	音楽療法③(高齢者領域)	予習:認知症について調べる。 復習:講義内で学んだことをまとめる。
第12回	音楽療法④(精神科領域)	予習:統合失調症、双極性障害について調べる。 復習:講義内で学んだことをまとめる。
第13回	音楽療法⑤(ホスピス・緩和ケア領域)	予習:ホスピスについて調べる。 復習:講義内で学んだことについてまとめる。
第14回	産業音楽心理学(現代社会と音楽、商品としての音楽、産業のための音楽、音楽の消費の方法)	予習:第13章 第1節～第4節を読んでくる。 復習:音楽とはどのような存在なのかまとめる。
第15回	本科目の総括(振り返り)	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:授業で学んだことを音楽活動へ活かせるようにする。

科目名(クラス)	P.A.C.S 1		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
エンターテインメントを含む芸術作品が、どのような歴史や社会を背景として持っているのかを映像化された作品を通じて考察していきます。ヨーロッパ、アメリカ、日本で親しまれている文学、演劇、映画を鑑賞し解説する。								
【授業の到達目標】								
取り上げる作品の歴史や社会背景を理解し、それぞれが持っている文化的意味を明確に理解することができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
取り上げる作品の概説と意味を説明し、その考察結果をコメントシートにまとめる訓練を毎回行う。基本的にゼミ形式で進めます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
映像作品に興味を持ち、同時代の作品を比較しながら、各作品の多様な解釈を試みて下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・各回のコメントシート(20%) ・与えられた課題のプレゼンテーション(30%) ・レポート課題(2回)(50%)								
教科書	適宜プリントを使います。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	映画作品と原作を文学的な方法論でどのように読み解くのか？				(予習)自分の好きな映像作品について考えておく。 (復習)学んだ方法を用いて好きな作品を読み解いてみる。			
第2回	エーミールと探偵たち① (推理小説と社会)				(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を読んでいる。			
第3回	エーミールと探偵たち② (子供と教育)				(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ハリーポッター① (ファンタジーと社会)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第5回	ハリーポッター② (多様性と制度)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第6回	秘密の花園① (父性と自律性)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第7回	秘密の花園② (ジェンダーと社会)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第8回	レ・ミゼラブル① (近代と道徳)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第9回	レ・ミゼラブル② (産業革命前夜の社会)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第10回	夏の庭① (「子供」の成立)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第11回	夏の庭② (死と生)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第12回	西の魔女が死んだ① (人間と自然)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第13回	西の魔女が死んだ② (現代を生きる意味)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第14回	まとめ① ー子供の視点から見た世界ー	(予習)児童文学の読み方を考えてみる。 (復習)「子供」の視点から一作品を解釈してみる。
第15回	まとめ② ー個としての自律性を考えるー	(予習)「意味」の成立についてまとめてみる。 (復習)芸術作品の「読み」とは何かを考察してみる。

科目名(クラス)	P.A.C.S 2		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
エンターテインメントを含む芸術作品が、どのような歴史や社会を背景として持っているのかを映像化された作品を通じて考察していきます。ヨーロッパ、アメリカ、日本で親しまれている文学、演劇、映画を鑑賞し解説する。								
【授業の到達目標】								
取り上げる作品の歴史や社会背景を理解し、それぞれが持っている文化的意味を明確に理解することができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
取り上げる作品の概説と意味を説明し、その考察結果をコメントシートにまとめる訓練を毎回行う。基本的にゼミ形式で進めます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
映像作品に興味を持ち、同時代の作品を比較しながら、各作品の多様な解釈を試みて下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・各回のコメントシート(20%) ・与えられた課題のプレゼンテーション(30%) ・レポート課題(2回)(50%)								
教科書	適宜プリントを使います。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	ヨーロッパ、アメリカ、ラテンアメリカ、そして日本の文学の概観とエンターテインメントの現状について				(予習)自分の好きな領域の文学やエンタメを考えておく。 (復習)各国の文学の特徴をまとめる。			
第2回	グレート・ギャツビー (フィッツジェラルド)				(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。			
第3回	ライ麦畑でつかまえて (サリンジャー)				(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ティファニーで朝食を (カポーティー)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第5回	若きヴェルテルの悩み (ゲーテ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第6回	車輪の下 (ヘッセ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第7回	マルテの手記 (リルケ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第8回	変身 (カフカ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第9回	罪と罰 (ドストエフスキー)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第10回	桜の園 (チェーホフ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第11回	赤と黒 (スタンダール)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第12回	モンテニクリスト伯 (デュマ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第13回	狭き門 (ジイド)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第14回	異邦人 (カミュ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第15回	まとめ	(予習)一作品を取り上げて学んだ方法論で解釈 してみる。 (復習)他の方法論で取り上げた作品を解釈 してみる。

科目名(クラス)	P.A.C.S 3		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
様々な音楽作品が、歴史や社会、文化、芸術等を背景に、何を表現しようとしているのかを探求し、読み解く力を身につけます。 作曲家の人物像についても、映像なども見ながら深く探求します。								
【授業の到達目標】								
音楽作品が歴史や社会、文化、芸術等を背景に、何を表現しようとしているのかを探求し、読み解く力が身についている。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義が中心ですが、個人やグループでのワーク(考察結果のまとめ等)も含みます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
授業で取り上げるのは、音大生として知っておきたい作品ばかりです。授業中は音楽や映像に集中し、特に興味を持った作品については発展的な取り組みをすると自分の世界が広がります。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業への積極性(「考察結果のまとめ」等の課題)50%、レポート課題50%								
教科書	使用しません。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献	授業内に適宜紹介します。			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	音楽作品を読み解くとは？				予習:シラバスをよく読んでおく。 復習:次回のテーマ作品について調べてみる。			
第2回	ドビュッシー《月の光》①				予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。			
第3回	ドビュッシー《月の光》②				予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ラヴェル《マ・メール・ロワ》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第5回	ラヴェル《マ・メール・ロワ》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第6回	ラヴェル《クープランの墓》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第7回	ラヴェル《クープランの墓》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第8回	オネゲル《パシフィック231》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第9回	オネゲル《パシフィック231》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第10回	フォーレ《レクイエム》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第11回	フォーレ《レクイエム》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第12回	プーランク《カンタータ「人間の顔」》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第13回	プーランク《カンタータ「人間の顔」》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第14回	まとめ① 作曲家と作品のまとめ	予習:探求した作曲家、作品について整理しておく。 復習:探求した作曲家、作品について考えをまとめる。
第15回	まとめ② 音楽作品を探求する手法のまとめ	予習:音楽作品を探求する手法を振り返っておく。 復習:音楽作品を探求する手法についてまとめる。

科目名(クラス)	P.A.C.S 4		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
様々な音楽作品様々な音楽作品が、歴史や社会、文化、芸術等を背景に、何を表現しようとしているのかを探求し、読み解く力を身につけます。 作曲家の人物像についても、映像なども見ながら深く探求します。								
【授業の到達目標】								
音楽作品が歴史や社会、文化、芸術等を背景に、何を表現しようとしているのか探求し、読み解く力が身についている。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義が中心ですが、個人やグループでのワーク(考察結果のまとめ等)も含みます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
授業で取り上げるのは、音大生として知っておきたい作品ばかりです。授業中は音楽や映像に集中し、特に興味を持った作品については発展的な取り組みをすると自分の世界が広がります。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業への取り組み(考察結果のまとめ等)50%、レポート課題50%								
教科書				著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献	授業内で適宜紹介します。			著者等			出版社	
参考文献				著者等			出版社	
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	音楽作品を読み解くとは？				予習:シラバスをよく読んでおく。 復習:次回のテーマ作品について調べてみる。			
第2回	モーツァルト 歌劇《魔笛》①				予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。			
第3回	モーツァルト 歌劇《魔笛》②				予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ベートーヴェン《交響曲第9番「合唱付き」》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第5回	ベートーヴェン《交響曲第9番「合唱付き」》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第6回	ショパン《エチュードOp.10-12「革命」》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第7回	ショパン《エチュードOp.10-12「革命」》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第8回	スメタナ《交響詩「モルダウ」》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第9回	スメタナ《交響詩「モルダウ」》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第10回	マーラー《交響曲第5番》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第11回	マーラー《交響曲第5番》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第12回	R.シュトラウス《歌劇「ナクソス島のアリアドネ」》①	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第13回	R.シュトラウス《歌劇「ナクソス島のアリアドネ」》②	予習:作曲家について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことをさらに調べてみる。
第14回	まとめ① 作曲家と作品のまとめ	予習:探求した作曲家、作品について整理しておく。 復習:探求した作曲家、作品について考えをまとめる。
第15回	まとめ② 音楽作品を探求する手法のまとめ	予習:音楽作品を探求する手法を振り返っておく。 復習:音楽作品を探求する手法についてまとめる。

科目名(クラス)		ポップス・ボーカルアプローチA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員		仁科 かおり		履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術文化専攻			
【授業の概要】									
芸術音楽、伝統音楽とは異なる、音楽産業を通して多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの歴史を『歌唱』を通じて学びます。 1950年から現代までのポップスを、10年ごとに海外、日本、双方の歴史に触れ、背景にはどんな出来事が起こっていたかなどを検証します。前期に関しては主に新しいジャンルが派生していく過程を追っていきます。 関連性、連動性、日本のポップスにおける独自性にも着目、未来における変化を予測するヒントとし、現在の音楽業界にとって必要なものは何か考えます。									
【授業の到達目標】									
それぞれの時代の代表楽曲を実技歌唱、メロ譜作成することにより、その時代になぜ流行したのかじっくりと考えます。 音楽業界に携わる人間として、まず共同制作者たちへ伝達能力(音楽知識、楽譜力)を身に付け、自らの構想を投影した作品を観客へ送り出せるよう、次世代の表現者としてパフォーマンス能力だけではなくプロデュース能力も高めます。 知る、書く、表現する、このシンプルな3段階を実施し、伝える力へと繋げていきます。									
【授業の「方法」と「形式」】									
講義、DVDなど動画鑑賞、歌唱実践トレーニング メロディー譜作成									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
基本的に声で自己表現が目的の授業になりますので、おひとり又は少人数での歌唱、朗読の場面も出てきます。 強要は致しませんが、積極的な参加を望みます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
課題による採点(70%)及び、授業への積極性。(30%)									
課題 カバー曲によるセルフプロデュース作品の企画書作成。(手書き、パソコン作成どちらでも可)									
教科書					著者等		出版社		
教科書					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】									
回数	授 業 内 容					準備学習(予習・復習)			
第1回	基礎ボイストレーニング(身体トレーニング)					復習 身体トレーニングを覚える			
第2回	基礎ボイストレーニング(歌唱トレーニング)					予習 前回の授業を振り返る 復習 歌唱トレーニングを覚える			
第3回	1950年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)					予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	1950年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	1950年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第6回	1950年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	1960年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ロック、モータウン、ボサノバなど)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第8回	1960年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ロック、モータウン、ボサノバなど)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	1960年代 日本のポップスシーンについて 前編 (歌謡曲、演歌 グループサウンズなど)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第10回	1960年代 日本のポップスシーンについて 後編 (歌謡曲、演歌 グループサウンズなど)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	1970年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ハードロック パンク ファンクなど)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第12回	1970年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ハードロック パンク ファンクなど)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	1970年代 日本のポップスシーンについて 前編 (演歌 ニューミュージック アイドルなど)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第14回	1970年代 日本のポップスシーンについて 後編 (演歌 ニューミュージック アイドルなど)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	カバー曲でセルフプロデュースしてみよう(前期の曲から選択) (自分自身を生かすポイントを考え、企画書作成する)	復習 企画書を期日までに提出

科目名(クラス)		ポップス・ボーカルアプローチB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員		仁科 かおり	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】									
芸術音楽、伝統音楽とは異なる、音楽産業を通して多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの歴史を『歌唱』を通じて学びます。 1950年から現代までのポップスを、10年ごとに海外、日本、双方の歴史に触れ、背景にはどんな出来事が起こっていたかなどを検証します。後期は音楽供給形態の変化、ブーム、ヒットの仕掛けなどに焦点をあてます 関連性、連動性、日本のポップスにおける独自性にも着目、未来における変化を予測するヒントとし、現在の音楽業界にとって必要なものは何かを考えます。									
【授業の到達目標】									
それぞれの時代の代表楽曲を実技歌唱、メロ譜作成することにより、その時代になぜ流行したのかじっくりと考えます。 音楽業界に携わる人間として、まず共同制作者たちへの伝達能力を身に付け、自らの構想を投影した作品を観客へ送り出せるよう、次世代の表現者としてパフォーマンス能力だけでなくプロデュース能力も高めます。 知る、書く、表現する、このシンプルな3段階を実施し、伝える力へと繋げていきます。									
【授業の「方法」と「形式」】									
講義、DVDなど動画鑑賞、歌唱実践トレーニング メロディー譜作成									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
基本的に声で自己表現が目的の授業になりますので、おひとり又は少人数での歌唱、朗読の場面も出てきます。 強要は致しませんが、積極的な参加を望みます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
課題による採点(70%)及び、授業への積極性。(30%)									
課題 カバー曲によるセルフプロデュース作品の企画書作成。(手書き、パソコン作成どちらでも可)									
教科書					著者等		出版社		
教科書					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】									
回数	授 業 内 容					準備学習(予習・復習)			
第1回	1980年代 海外のポップスシーンについて 前編 (MTV全盛期 CD登場)					復習 代表曲メロ譜を仕上げる			
第2回	1980年代 海外のポップスシーンについて 後編 (MTV全盛期 CD登場)					予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	1980年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ランキング番組全盛期)					予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	1980年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ランキング番組全盛期)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	1990年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ダンスミュージックブーム プロソールス登場)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第6回	1990年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ダンスミュージックブーム プロソールス登場)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	1990年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ドラマ CM タイアップソング全盛期)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第8回	1990年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ドラマ CM タイアップソング全盛期)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	2000年代 海外のポップスシーンについて (多様化するジャンル 音楽配信の普及)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第10回	2000年代 海外のポップスシーンについて 後編 (多様化するジャンル 音楽配信の普及)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	2000年代 日本のポップスシーンについて 前編 (アニソン全盛期)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第12回	2000年代 日本のポップスシーンについて 後編 (アニソン全盛期)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	2010年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ボーカロイド 集団アイドルブーム)	予習 前回の授業を振り返る 復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第14回	2010年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ボーカロイド 集団アイドルブーム)	予習 代表曲の歌唱 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	将来プロデュースしたい作品について考える (アピールポイント 戦略などを考え、企画書作成する)	復習 企画書を期日までに提出

科目名(クラス)	エンタメプロデュースA／コンポーシング	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	城之内ミサ	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】							
音楽のボーダーレス化が著しい今。ポップス領域とされる様々な「サウンド」の仕組みを理解することは、音楽の多様性に対する柔軟な対応力を養うことに繋がります。この授業では、和声とはまた違った観点での「応用」とともに多様なサウンドの仕組みも研究します。既存の楽曲のコード展開やメロディを分析しながら、やがては自分自身で作曲する、あるいは既存の曲を自分なりにアレンジするためのアイデアを研究します。既存の曲や講師自身の楽曲やアレンジ考査、コンピューター音楽制作の入り口も経験しながら、作曲のモチーフや延ばし方、ポップスに於けるピアノ伴奏等も研究します。							
【授業の到達目標】							
芸術音楽・伝統音楽とは異なり、音楽産業を通してより多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの『楽曲制作過程』にスポットをあてます。創作と、作ったその先にどういった作用があるのかは、この業界で長らく積んだ「経験則」からなる解説が最も解りやすいと考えます。楽曲制作過程の中で、作曲者やクライアントの要求とはどういうものなのかを知る事により、また自身でも創作することをトライしてみることで、自らの演奏・歌唱に於ける自由な表現の選択、可能性、柔軟性、応用性を身につけて行きます。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義と実践をバランスよく実施。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
受講される皆さんに作曲デモンストレーションとしてモチーフ(2小節)作りに参加戴いたり、楽器演奏や歌唱で参加戴いたり、台本を読んだりしていただくことがあります。強要はいたしません積極的に参加いただくことを望みます。人前で何かをされたくない方も受講出来ますが、講師の講義や学生さんのパフォーマンスには真摯に耳を傾ける事を心から望みます。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	、イメージと音楽Ⅰ～Don't think, fill／様々なジャンルの世界			予習:シラバスを読んでおく。			
第2回	イメージと音楽Ⅱ～作り手として表現者として観客に何を伝えたいのか			予習:前回の授業を振り返っておく。 復習:今回の授業をまとめる。			
第3回	モチーフとは?「偶然のモチーフ」			予習:前回の授業を振り返っておく。 復習:今回の授業をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	時には理論、理屈がなぜ必要なのか～ダイアトニックスケールとコード	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第5回	重要なのは「メロディ」／メロディとコードの関係(ハーモナイズ、リハモナイズ)	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第6回	言葉と音楽Ⅱ ～短い詩に曲をつけてみよう	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第7回	CM音楽を作ってみよう／15秒の音楽～プロセスと実践	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第8回	アレンジ～ポップス領域オリジナル伴奏法とリズム	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第9回	スタジオミュージシャン／初見演奏、スタジオワーク、表現力～もしもあなたがシンガーなら、奏者なら	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第10回	アーティストとスタッフ(プロデューサー、マネジャー、レコード会社等、キャンペーン、取材)	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第11回	アナリーゼ(楽曲分析～トランスポジションとモデュレーション)	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第12回	クライアントと音楽 無理難題に挑む。	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第13回	ポップスとクラシック	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第14回	芝居と音楽	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第15回	音を描く～ 作ったその先に	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。

科目名(クラス)	エンタメプロデュースB／演出		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	清弘 誠	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
TBS、NHK等にて数々の大ヒットドラマの演出(プロデュース、キャスティング含む)を手がけてきた講師による『演出術』を学ぶ。実際にドラマで使われた台本等を使用して、演技をする側、演出する側の実践を学んで行く。								
【授業の到達目標】								
総勢100名以上にもものぼる多くのスタッフやキャストを束ねて、ひとつの作品を作り上げて来た講師の貴重な経験を伝授しながら、受講生たちが授業に積極的に参加し、自ら、あるいはグループワークを通して、考える力、セルフプロデュース能力、コミュニケーション能力を養っていくことを目的とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義と実践をバランスよく実施。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
講義のみならず、実践体験として朗読、本読み、演技等授業内容に添ったパフォーマンスを受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加すること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。								
教科書				著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	テレビドラマと映画ーその歴史と今				予習:自身の好きなドラマ、心に残ったセリフ等をまとめる。			
第2回	テレビドラマの作り方				予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	演出とは何か				予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	演出と脚本	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	脚本の出来るまで	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	脚本を読み解く	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	リハーサルとロケハン	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	コンテの作り方と映像	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	ドラマと美術 緑山スタジオの見学	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	照明と音響効果 編集について	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	ドラマと音楽 その1	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	ドラマと音楽その2 DVDにて検証	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	テレビドラマのこれから	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	まとめ その1 発表	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	まとめ その2 発表	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	ステージングとパフォーマンス		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	HIRO	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
授業の概要: エンタテインメントの中でも、特に今の業界ではダンスの要素が重要になっている。ただ与えられた振り付けを踊る、というのではなく、ダンス全般の歴史文化含めた実践的な授業を展開する。業界での経験豊かな講師により、ダンスを通じた演出術やコミュニケーション等、体を使いながら表現する面白さ、奥深さを体験する。								
【授業の到達目標】								
授業の到達目標: ダンス全般(その歴史、文化、ダンス実践)を通して、体や声を使い自身のパフォーマンスとしてセルフプロデュースの考え方を養う同時に、パフォーマンスする側と演出する側の視点、更にはこれらを通し、国際人としてよりよいコミュニケーション能力のディスカバリーを開発する。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義と実践をバランスよく実施。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
講義のみならず、実践体験としてダンス、演技等授業内容に添ったパフォーマンスを受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加することを望みます。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度。								
教科書				著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	舞踊とは、ダンスの歴史、ダンスの大元であるクラシックバレエ、ダンスのジャンルについて				予習: シラバスを読んでおく。			
第2回	前回の内容の続き、さまざまなダンスのジャンルの歴史とHIPHOPの歴史について (基礎トレーニング続き他、歩き方、立ち姿勢、筋力トレーニング基礎、身体の使い方)				予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	民族舞踊を研究、 (クラシックバレエ基礎)				予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	商業的ダンス、Jpopダンスの見せ方、振り付けの研究 (J Pop ダンス)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	日体大の団体行動、高校ダンス部など複雑なフォーメーションの研究 (実際に自分達で動いて創作してみる)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	ミュージカルの見せ方の研究、他ジャンルとの比較、 (実際に歌って踊ってみる コーラスラインのONE)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	歌う、という行為ではなく『対人用ボイストレーニング、相手に対して聴き心地がよい声の出し方』 (声を出す、読み上げる、練習 HIPHOP基礎)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	RAPに触れる、RAPを作る、韻を踏むとは、、(2の歴史を踏まえて) 担当講師 難波剛史(ナンバタケフミ) (HIP HOPリズムトレーニング)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	2.8を踏まえ、ゴスペルの歌詞、内容分析、ゴスペル歌って踊る、ボ ディパーカッションやリズム作り、 (HIP HOP ダンス 、ボディパーカッション、体を使ったコール&レスポ ンス、自由な表現)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	映画鑑賞「ブロードウェイ、ブロードウェイコーラスラインにかける夢」	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	お芝居風ダンス、感情移入をして踊ることに挑戦 (私の振り付けでバラードでの踊り、ジャズやバレエの動き)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	前回は踏まえ、各自発表、創作すること、各自自由な曲で自由 に表現(各個人で何を表現したいかを考えながらの振り付け作り)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	前回は踏まえ、一人ずつ発表	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	HIPHOP バレエ、JAZZ以外のさまざまなダンスを体験してみよう(タッ プダンスなどでも私がチョイスしたものでもよいし、生徒さんから各々 やってみたいと言われたものなど)	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	集大成、とにかくたくさん踊る！ ダンスや身体を使って魂の解放、表現の自由の大切さ、素晴らしさ、 そして『人に対して情熱を持って接する』とはどういうことなのかをディス カッション。	予習: 前回の振り返りをする。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	演技とパフォーマンス		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	ひかる一平	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
実際に演じることのみならず、芝居を通し、文章力、読解能力、言葉の大切さ、想像力、コミュニケーション能力等、様々な側面を体験する。								
【授業の到達目標】								
体や声を使い自身のパフォーマンスとしてセルフプロデュースの考え方を養う同時に、パフォーマンスする側と演出する側の視点、更にこれらを通し、国際人としてよりよいコミュニケーション能力のディスカバリーを開発する。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義と実践をバランスよく実施。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
講義のみならず、実践体験としてダンス、演技等授業内容に添ったパフォーマンスを受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加することを望む。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度。								
教科書				著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	芝居を使ったセルフプロデュース／人は全てが演者であり演出家 ・演ずることで別人に ・演ずることで得する事 ・エチュード				予習:シラバスを読んでおく。			
第2回	自分をスキャンして自分を知る ・エチュード（記者会見）／人から見た自分 ・変えたい時こそ演じてみる ・自身→自信へ				予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	コミュニケーション① ・第一声から始まる第一印象 ・表情豊かになる方法 ・自分なりの緊張ほぐす方法				予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	コミュニケーション② ・緊張感対緊張感 ・リラックスする方法 ・良い握手で相手を引き込め	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	コミュニケーション③ ・深呼吸 呼気と吸気 ・相手の身体とシンクロさせる ・見えない棒で他者とのシンクロ	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	コミュニケーション④ ・恋と演技 ・言葉のキャッチボール ・場の空気を読み観察力を身に着ける	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	想像力 ・自分だけの想像力 1分エチュード ・共有させる想像力 エチュード	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	表現① ・短い台本を読む(テキスト①事情聴取) ・台本からのミニゲーム ・エチュード	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	表現② ・演じてみる(テキスト①事情聴取) ・字面を追わない ・演じることで一番必要なものとは	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	表現③・台本読み(テキスト②楽屋) ・テンションアップ(5アップ)感情の開放 ・感情のぶつけ合い	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	表現④ ・演じてみる(テキスト②楽屋)	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	表現⑤ ・朗読劇 もしくは台本を読む ・小説を読むのと違いを感じる ・気持ちの動きを読み取る	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	表現⑥ ・深く読み事から得る読解力と想像力 ・相手の気持ちを理解する	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	総合① ・芝居 13回までに演じたことを身体で表現・気持ちで表現する	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	総合② ・演ずることによっての変化 ・自信がついたもの ・全てにおけるセルフプロデュースの必要性	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	THE 業界人(仕事の流儀)ⅠA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	城之内 ミサ	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
授業の概要:エンタテインメント業界に於ける各界で今も第一線で活躍する講師陣から、今の業界～未来の業界について様々な世界観を学ぶ。エンタメ業界に於ける多くの経験からなるそれぞれの講師の授業は、幾多の書、幾多の理論、賢者の言葉を超えて「学びのライブ」を展開していく。								
【授業の到達目標】								
授業の到達目標:教員からの一方的な講義だけで知識を覚えるのではなく、教員の世界観について受講生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことを目的とする。そうした力を養う授業手法として、時にはグループワークや自身での表現を披露しながら、自ら考える力、セルフプロデュース能力を延ばしていくことを目的とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
オムニバス形式による授業のため自身の興味の有無に関わらず講師の先生のお話、パフォーマンス等には真摯に耳を傾けることを望みます。また講師によっては実践体験として歌、演奏、その他授業内容に添ったパフォーマンスを受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加することを望みます。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度。								
教科書				著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	講師: 中田宏 /青山学院大学経済学部卒業。松下政経塾を経て衆議院議員4期、横浜市長2期。テレビコメンテーターとしては『バイキング』『ビートたけしTVタックル』『そこまで言って委員会』『情報7days ニュースキャスター』等。岡山理科大学客員教授、千葉科学大学客員教授、倉敷芸術科学大学客員教授、著書多数				予習:シラバスを読んでおく。			
第2回	講師: 中田宏 同上				予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	講師: 中田宏 同上				予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	講師:伊秩弘将/作詩作曲家、シンガーソングライター、音楽プロデューサー/渡辺美里、森高千里等作家を経てシンガーソングライターとしてもデビュー。様々なアーティストに楽曲提供。現在、新たな発信基地原宿駅前ステージに出演するガールズユニットなどの楽曲提供とプロデュースを展開	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	講師:伊秩弘将 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	講師:伊秩弘将 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	講師:赤澤寿則/ケイダッシュマネジャー、制作プロデューサー・上智大学英文科卒業。様々なアーティスト、タレントのマネジャーをつとめる傍ら、ブランニューミュージック制作プロデューサーとして数々のアーティストやアイドルを輩出。	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	講師:赤澤寿則 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	講師:赤澤寿則 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	講師:吉田照美/アナウンサー、キャスター、タレント/早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、文化放送入社。多くの番組に出演。ラジオ「セイヤング」「てるてるワイド」「やる気MANMAN!」で一世風靡、テレビでは「夕焼けニャンニャン」「ぴったしカンカン」の司会やテレビ朝日「Qさま!」の名回答でもおなじみ	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	講師:吉田照美 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	講師:吉田照美 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	講師:名郷根雅史/クラウン・徳間レーベル取締役 制作プロデューサー/早稲田大学社会学部卒。日本コロムビアを経てクラウン・マーケティング本部長・JPOPの制作部門を担当。GACKT・城之内ミサ・北島三郎、純烈、他を手がけ、現在は日本クラウン、徳間ジャパンコミュニケーションにてヒット作品を手がける	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	講師:名郷根雅史 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	講師:名郷根雅史 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	THE 業界人(仕事の流儀)ⅠB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	城之内ミサ	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
授業の概要:エンタテインメント業界に於ける各界で今も第一線で活躍する講師陣から、今の業界～未来の業界について様々な世界観を学ぶ。エンタメ業界に於ける多くの経験からなるそれぞれの講師の授業は、幾多の書、幾多の理論、賢者の言葉を超えて「学びのライブ」を展開していく。								
【授業の到達目標】								
授業の到達目標:教員からの一方的な講義だけで知識を覚えるのではなく、教員の世界観について受講生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことを目的とする。そうした力を養う授業手法として、時にはグループワークや自身での表現を披露しながら、自ら考える力、セルフプロデュース能力を延ばしていくことを目的とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
オムニバス形式による授業のため自身の興味の有無に関わらず講師の先生のお話、パフォーマンス等には真摯に耳を傾けることを望みます。また講師によっては実践体験として歌、演奏、その他授業内容に添ったパフォーマンスを受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加することを望みます。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度。								
教科書			著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	講師:城之内ミサ／東邦音大在学中より「3年B組金八先生」等映像音楽作曲家としてプロの活動を始める。00年よりアジアの音楽を手掛け自作アルバムは欧米諸国でチャート上位に。06年ユネスコ・パリ本部から作曲部門では日本人で初の『ユネスコ平和芸術家』に任命。ユネスコ公式パートナーシップ事業「世界遺産トーチランコンサート」を主宰しNYカーネギーホール初め五大陸でのコンサートを実施。ユネスコ・パリ本部のメッセンジャーとしても世界で期待されているアーティスト。				予習:シラバスを読んでおく。			
第2回	講師:山本幸司／／コンサートプロモーター、イベンター。株式会社ケーエムミュージック取締役、株式会社アクセス代表取締役 神奈川県を中心に関東エリアにてライブハウスからスタジアム規模までコンサートやイベントを運営、ツアー制作の傍らアーティストマネージメント、育成、CD制作プロデュースも手掛ける。				予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			
第3回	講師:山本幸司				予習:前回の授業の内容を振り返る。 復習:今回の授業の内容をまとめる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	講師: 山本幸司	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	講師: 福原慶匡 / アニメプロデューサー、音楽プロデューサー、実業家 / 早稲田大学教育学部卒業。株式会社8million代表取締役社長、ヤオヨロズ株式会社取締役等。『みならいディーバ』の制作プロデューサー、『てさぐれ! 部活もの』シリーズやテレビ東京『けものフレンズ』アニメプロデューサー。	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	講師: 福原慶匡 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	講師: 福原慶匡 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	講師: 大原さやか / 青山学院大学文学部英米文学科に入学。当時は管弦楽団に所属。総合学園ヒューマンアカデミーの声優ワークショップでも教えている。「機動戦士ガンダム サンダーボルト」(カーラ・ミッチャム役)、「ID-0」(カーラ・ミラ＝フォーデン機役)、「FAIRY TAIL」シリーズ(エルザ・スカーレット役)、「美少女戦士セーラームーンCrystal」(海王みちる / セーラーネプチューン役)等を演じる。	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	講師: 大原さやか 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	講師: 洲上サトリーノ / 筑波大学国際関係学科 卒 ニューヨーク大学大学院 映画学科 卒。帰国後、独立し、映像制作会社を設立し、インディーズの映画制作の機会を伺いつつ、主に放送用映像、ゲーム、VFXの制作を手がける。絵本も手がけ「エティエの物語」「白いソニア」「看護ねこラディ」等、各国で発売、アニメ短編映画「白いソニア」の監督。	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	講師: 洲上サトリーノ 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	講師: 洲上サトリーノ 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	講師: 柿崎譲志 第一音響社長、音楽制作プロデューサー / 府中市音楽協働アドバイザー。オフコース、小田和正、泉谷しげる、大竹しのぶなど多くのアーティストのCD制作に関わっている	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	講師: 柿崎譲志 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	講師: 柿崎譲志 同上	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名	ヒューマンコミュニケーション1・2・3		
【授業計画の概要】			
本学の学生は、建学の精神である「音楽芸術の研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」を指針とし、現代社会の中で、音楽に関わる者として知的創造性を高め、人間への深い理解を持ってコミュニケーションを図ることが重要である。それによって形成される広い視野の中で、音楽表現の実践や音楽教育は生きたものになると考える。このような理念の実践の場として下記の通り必修科目〔各学年1単位〕を設定する。			
【授業の到達目標】			
音楽を学ぶ者として、幅広く、深い教養を修得し、自分の音楽活動を更に高めることが出来る。 ボランティア活動等の奉仕にかかわる体験活動を通して社会性を身につける。			
【成績評価の方法】			
授業内容を総合的に評価する。			
【授業計画の内容】			
月	内 容		
4	【目標】 1) 行事参加における計画・実行の段階を、様々な個性と相互協力をし、責任を持って達成する事を体験する ・行事の意義を十分に理解し、積極的に参加し、協力し、本学学生として参加したことに喜びを見出す。 ・計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階までそれぞれにおいて創意工夫し、責任を持って遂行することの大切さを自覚し、友人とのコミュニケーションをはかる中において、社会人としての自覚を養う。 2) 音楽活動等の体験を通じたボランティア活動を実施することによって、社会に貢献し、人間形成の育成をはかる。 ・本学で学んだ音楽的感性、豊かな情操を学園の内外において一人一人の学生が自ら参加し、ボランティア活動等の奉仕にかかわる体験活動を通して社会性を身につける。 【単位】 ポイント制により年間12ポイント以上取得することで1単位認定する。〔尚、余剰ポイントは次年度には、繰り越さない〕単位履修のためのポイント項目、定期研究発表演奏会・公開講座・大学短大の認めた演奏会・大学短大の認めたコンクール・大学短大の認めたボランティア活動、及び大学短大の認めた上記項目に類するもの。 〔各項目のポイント数は、別途定め告示する。〕		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			